

Holy Bible

Aionian Edition®

口語訳「聖書」

**Japanese Kougo-yaku, Colloquial
Gospel Primer**

目次

序文

創世記 1-4

ヨハネの福音書 1-21

ヨハネの黙示録 1-4

66 詩

読者ガイド

用語集

地図

運命

イラスト , Doré

Welcome to the *Gospel Primer*. Thank you for your interest in the *Holy Bible Aionian Edition ®*, found at AionianBible.org. The Aionian Bible project invites you to reconsider traditional Christian understanding. It may seem utterly ridiculous to suggest that the most well-known verse in the history of Christianity, John 3:16, was improperly translated. And it may seem preposterous to propose that a destiny of Heaven or Hell is not the complete picture. Yet have we or our forefathers ever carried ignorance and errors along for centuries in the past? We have. Even so, the Aionian Bible project does not abandon tradition or Christian heritage. We have much to learn from the belief and practice of godly men and women throughout all ages. And this booklet is a primer to the good news of Jesus Christ, the savior of all mankind.

Holy Bible Aionian Edition ®

口語訳「聖書」

Japanese Kougo-yaku, Colloquial
Gospel Primer

Creative Commons Attribution 4.0 International, 2018-2024

Source text: Crosswire.org

Source version: 8/18/2017

Source copyright: Public Domain

Colloquial Japanese Bible by the Japan Bible Society, 1954-1955

Psalm 130-139, Proverb 30-31 from Meiji / Matthew 25-28, John 19, Roman 10 from Bungo

Formatted by Speedata Publisher 4.19.20 (Pro) on 10/8/2024

100% Free to Copy and Print

TOR Anonymously

<https://AionianBible.org>

Published by Nainoia Inc

<https://Nainoia-Inc.signedon.net>

We pray for a modern Creative Commons translation in every language

Translator resources at <https://AionianBible.org/Third-Party-Publisher-Resources>

Report content and format concerns to Nainoia Inc

Volunteer help is welcome and appreciated!

序文

日本語 at AionianBible.org/Preface

The *Holy Bible Aionian Edition* ® is the world's first Bible *un-translation!* What is an *un-translation?* Bibles are translated into each of our languages from the original Hebrew, Aramaic, and Koine Greek. Occasionally, the best word translation cannot be found and these words are transliterated letter by letter. Four well known transliterations are *Christ*, *baptism*, *angel*, and *apostle*. The meaning is then preserved more accurately through context and a dictionary. The Aionian Bible un-translates and instead transliterates eleven additional Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and all mankind, and the nature of afterlife destinies.

The first three words are *aiōn*, *aiōnios*, and *aīdios*, typically translated as *eternal* and also *world* or *eon*. The Aionian Bible is named after an alternative spelling of *aiōnios*. Consider that researchers question if *aiōn* and *aiōnios* actually mean *eternal*. Translating *aiōn* as *eternal* in Matthew 28:20 makes no sense, as all agree. The Greek word for *eternal* is *aīdios*, used in Romans 1:20 about God and in Jude 6 about demon imprisonment. Yet what about *aiōnios* in John 3:16? Certainly we do not question whether salvation is *eternal*! However, *aiōnios* means something much more wonderful than infinite time! Ancient Greeks used *aiōn* to mean *eon* or *age*. They also used the adjective *aiōnios* to mean *entirety*, such as *complete* or even *consummate*, but never infinite time. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs. So *aiōnios* is the perfect description of God's Word which has *everything* we need for life and godliness! And the *aiōnios* life promised in John 3:16 is not simply a ticket to *eternal* life in the future, but the invitation through faith to the *consummate* life beginning now!

The next seven words are *Sheol*, *Hadēs*, *Geenna*, *Tartaroō*, *Abyssos*, and *Limnē Pyr*. These words are often translated as *Hell*, the place of eternal punishment. However, *Hell* is ill-defined when compared with the Hebrew and Greek. For example, *Sheol* is the abode of deceased believers and unbelievers and should never be translated as *Hell*. *Hadēs* is a temporary place of punishment, Revelation 20:13-14. *Geenna* is the Valley of Hinnom, Jerusalem's refuse dump, a temporal judgment for sin. *Tartaroō* is a prison for demons, mentioned once in 2 Peter 2:4. *Abyssos* is a temporary prison for the Beast and Satan. Translators are also inconsistent because *Hell* is used by the King James Version 54 times, the New International Version 14 times, and the World English Bible zero times. Finally, *Limnē Pyr* is the Lake of Fire, yet Matthew 25:41 explains that these fires are prepared for the Devil and his angels. So there is reason to review our conclusions about the destinies of redeemed mankind and fallen angels.

The eleventh word, *eleēsē*, reveals the grand conclusion of grace in Romans 11:32. Take the time to understand these eleven words. The original translation is unaltered and a highlighted note is added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. To help parallel study and Strong's Concordance use, apocryphal text is removed and most variant verse numbering is mapped to the English standard. We thank our sources at eBible.org, Crosswire.org, unbound.Biola.edu, Bible4u.net, and NHEB.net. The Aionian Bible is copyrighted with creativecommons.org/licenses/by/4.0, allowing 100% freedom to copy and print, if respecting source copyrights. Check the Reader's Guide and read online at AionianBible.org, with Android, and TOR network. Why purple? King Jesus' Word is royal... and purple is the color of royalty!



神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、
命の木の道を守らせられた。

創世記 3:24

創世記

く生き物とを、種類にしたがって創造し、
また翼のあるすべての鳥を、種類にしたが

1はじめに神は天と地とを創造された。**2** って創造された。神は見て、良しとされた地は形なく、むなしく、やみが淵のおも 。 **22**神はこれらを祝福して言われた、「生てにあり、神の靈が水のおもてをおおつて めよ、ふえよ、海の水に満ちよ、また鳥はいた。**3**神は「光あれ」と言われた。する 地にふえよ」。**23**夕となり、また朝となつと光があつた。**4**神はその光を見て、良し た。第五日である。**24**神はまた言われた、とされた。神はその光とやみとを分けられ 「地は生き物を種類にしたがっていだせ。た。**5**神は光を昼と名づけ、やみを夜と名 家畜と、這うものと、地の獸とを種類にしづけられた。夕となり、また朝となつた。 たがっていだせ」。そのようになつた。**25**第一日である。**6**神はまた言われた、「水 神は地の獸を種類にしたがい、家畜を種類の間ににおぞらがあつて、水と水とを分け にしたがい、また地に這うすべての物を種よ」。**7**そのようになつた。神はおおぞら 類にしたがって造られた。神は見て、良しを造つて、おおぞらの下の水とおおぞらの とされた。**26**神はまた言われた、「われわ上の水とを分けられた。**8**神はそのおおぞ れのかたちに、われわれにかたどつて人をらを天と名づけられた。夕となり、また朝 造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜ととなつた。第二日である。**9**神はまた言わ 、地のすべての獸と、地のすべての這うもれた、「天の下の水は一つ所に集まり、か のとを治めさせよう」。**27**神は自分のかたわいた地が現れよ」。そのようになつた。 ちに人を創造された。すなわち、神のかた**10**神はそのかわいた地を陸と名づけ、水の ちに創造し、男と女とに創造された。**28**神集まつた所を海と名づけられた。神は見て は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふ 、良しとされた。**11**神はまた言われた、「 えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海地は青草と、種をもつ草と、種類にしたが の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生きつて種のある実を結ぶ果樹とを地の上には 物とを治めよ」。**29**神はまた言われた、「 えさせよ」。そのようになつた。**12**地は青 わたしは全地のおもてにある種をもつすべ草と、種類にしたがつて種をもつ草と、種 ての草と、種のある実を結ぶすべての木と類にしたがつて種のある実を結ぶ木とをは をあなたがたに与える。これはあなたがたえさせた。神は見て、良しとされた。**13**夕 の食物となるであろう。**30**また地のすべてとなり、また朝となつた。第三日である。 の獸、空のすべての鳥、地を這うすべての**14**神はまた言われた、「天のおおぞらに光 もの、すなわち命あるものには、食物としがつて昼夜とを分け、しるしのため、 てすべての青草を与える」。そのようにな季節のため、日のため、年のためになり、 つた。**31**神が造つたすべての物を見られた**15**天のおおぞらにあって地を照らす光とな ところ、それは、はなはだ良かった。夕とれ」。そのようになつた。**16**神は二つの大 なり、また朝となつた。第六日である。

きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。**17**神はこれらを天のおおぞらに置いて地を照らせ、**18**昼と夜とをつかさどらせ、光とやみとを分けさせられた。神は見て、良しとされた。**19**夕となり、また朝となつた。第四日である。**20**神はまた言われた、「水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ」。**21**神は海の大いなる獸と、水に群がるすべての動

2 こうして天と地と、その万象とが完成した。**2**神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終つて第七日に休まれた。**3**神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に 、そのすべての創造のわざを終つて休まれたからである。**4**これが天地創造の由来である。主なる神が地と天とを造られた時、**5**地にはまだ野の木もなく、また野の草もは

えていなかった。主なる神が地に雨を降らせず、また土を耕す人もなかつたからである。**6**しかし地から泉がわきあがつて土の全面を潤していた。**7**主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となつた。**8**主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造つた人をそこに置かれた。**9**また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善惡を知る木とをはえさせられた。**10**また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となつた。**11**その第一の名はピソンといい、金のあるハビラの全地をめぐるもので、**12**その地の金は良く、またそこはブドウと、しまめのうとを産した。**13**第二の川の名はギホンといい、クシの全地をめぐるもの。**14**第三の川の名はヒデケルといい、アッシリヤの東を流れるもの。第四の川はユフラテである。**15**主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。**16**主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取つて食べてよろしい。**17**しかし善惡を知る木からは取つて食べてはならない。それを取つて食べると、きっと死ぬであろう」。**18**また主なる神は言われた、「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」。**19**そして主なる神は野のすべての獸と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれにどんな名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。**20**それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獸とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかつた。**21**そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠つた時に、そのあばら骨の一つを取つて、その所を肉でふさがれた。**22**主なる神は人から取つたあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。**23**そのとき、人は言った。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取つたものだから、これを女と名づけよう」。**24**それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。**25**人とその妻とは、ふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかつた。

3さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、ヘビが最も狡猾であった。ヘビは女に言った、「園にあるどの木からも取つて食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。**2**女はヘビに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、**3**ただ園の中央にある木の実については、これを取つて食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言されました」。**4**ヘビは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう」。**5**それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善惡を知る者となることを、神は知っておられるのです」。**6**女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取つて食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。**7**すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかつたので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。**8**彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。**9**主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。**10**彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。**11**神は言われた、「あなたが裸であるのを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取つて食べたのか」。**12**人は答えた、「わたしと一緒にしてくださいたあの女が、木から取つてくれたので、わたしは食べたのです」。**13**そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです」。女は答えた、「ヘビがわたしをだましたのです。それでわたしは

食べました」。14 主なる神はへびに言われた。5 しかしカインとその供た、「おまえは、この事を、したので、すえ物とは顧みられなかつたので、カインはすべての家畜、野のすべての獸のうち、最も大いに憤って、顔を伏せた。6 そこで主はのろわれる。おまえは腹で、這いあるき、カインに言われた、「なぜあなたは憤るの一生、ちりを食べるであろう。15 わたしはすえ物と女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おい事をしているのでしたら、顔をあげたらまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえよいでしよう。もし正しい事をしていないえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを増す。あなたは苦しんで子を産む。それでインは弟アベルに言った、「さあ、野原へもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを行こう」。彼らが野にいたとき、カインは治めるであろう」。17 更に人に言われた、弟アベルに立ちかかって、これを殺した。

「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど9 主はカインに言われた、「弟アベルは、ど、わたしが命じた木から取って食べたのでここにいますか」。カインは答えた、「知り、地はあなたのためののろわれ、あなたはません。わたしが弟の番人でしようか」。一生、苦しんで地から食物を取る。18 地は10 主は言われた、「あなたは何をしたのであなたのために、いばらとあざみとを生じます。あなたの弟の血の声が土の中からわかれなたは野の草を食べるであろう。19 あなたは額に汗してパンを食べ、ついに土にてこの土地を離れなければなりません。この土地が口をあけて、あなたの手から弟のあなたは、ちりだから、ちりに帰る」。20 血を受けたからです。12 あなたが土地を耕して、人はその妻の名をエバと名づけた。しても、土地は、もはやあなたのために実彼女がすべて生きた者の母だからである。を結びません。あなたは地上の放浪者とな21 主なる神は人とその妻とのために皮の着るでしょう」。13 カインは主に言った、「物を造って、彼らに着せられた。22 主なるわたしの罰は重くて負いきれません。14 あ神は言われた、「見よ、人はわれわれのひなたは、きょう、わたしを地のおもてからとりのようになり、善悪を知るものとなつ追放されました。わたしはあなたを離れてた。彼は手を伸べ、命の木からも取って食、地上の放浪者となねばなりません。わべ、永久に生きるかも知れない」。23 そそこたしを見付ける人はだれでもわたしを殺すで主なる神は彼をエデンの園から追い出しまで主なる神は彼をエデンの園から追い出して、人が造られたその土を耕させられた。24 神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた。

4 人はその妻エバを知った。彼女はみごもり、カインを産んで言った、「わたしは主によって、ひとりの人を得た」。2 彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となつた。3 日がたって、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。4 アベルもまた、その群れのういごと肥えたものと持ってきた。主はアベルとその供え物

とを顧みられた。5 しかしカインとその供た、「おまえは、この事を、したので、すえ物とは顧みられなかつたので、カインはすべての家畜、野のすべての獸のうち、最も大いに憤って、顔を伏せた。6 そこで主はのろわれる。おまえは腹で、這いあるき、カインに言われた、「なぜあなたは憤るの一生、ちりを食べるであろう。15 わたしはすえ物と女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おい事をしているのでしたら、顔をあげたらまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえよいでしよう。もし正しい事をしていないえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを増す。あなたは苦しんで子を産む。それでインは弟アベルに言った、「さあ、野原へもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを行こう」。彼らが野にいたとき、カインは治めるであろう」。17 更に人に言われた、弟アベルに立ちかかって、これを殺した。

「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど9 主はカインに言われた、「弟アベルは、ど、わたしが命じた木から取って食べたのでここにいますか」。カインは答えた、「知り、地はあなたのためののろわれ、あなたはません。わたしが弟の番人でしようか」。一生、苦しんで地から食物を取る。18 地は10 主は言われた、「あなたは何をしたのであなたのために、いばらとあざみとを生じます。あなたの弟の血の声が土の中からわかれなたは野の草を食べるであろう。19 あなたは額に汗してパンを食べ、ついに土にてこの土地を離れなければなりません。この土地が口をあけて、あなたの手から弟のあなたは、ちりだから、ちりに帰る」。20 血を受けたからです。12 あなたが土地を耕して、人はその妻の名をエバと名づけた。しても、土地は、もはやあなたのために実彼女がすべて生きた者の母だからである。を結びません。あなたは地上の放浪者とな21 主なる神は人とその妻とのために皮の着るでしょう」。13 カインは主に言った、「物を造って、彼らに着せられた。22 主なるわたしの罰は重くて負いきれません。14 あ神は言われた、「見よ、人はわれわれのひなたは、きょう、わたしを地のおもてからとりのようになり、善悪を知るものとなつ追放されました。わたしはあなたを離れてた。彼は手を伸べ、命の木からも取って食、地上の放浪者となねばなりません。わべ、永久に生きるかも知れない」。23 そそこたしを見付ける人はだれでもわたしを殺すで主なる神は彼をエデンの園から追い出しまで主なる神は彼をエデンの園から追い出して、人が造られたその土を耕させられた。24 神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた。

17 カインはその妻を知った。彼女はみごもってエノクを産んだ。カインは町を建て、その町の名をその子の名にしたがって、エノクと名づけた。18 エノクにはイラデが生れた。イラデの子はメホヤエル、メホヤエルの子はメトサエル、メトサエルの子はレメクである。19 レメクはふたりの妻をめとしをつけられた。16 カインは主の前を去って、エデンの東、ノドの地に住んだ。

17 カインはその妻を知った。彼女はみごもってエノクを産んだ。カインは町を建て、その町の名をその子の名にしたがって、エノクと名づけた。18 エノクにはイラデが生れた。イラデの子はメホヤエル、メホヤエルの子はメトサエル、メトサエルの子はレメクである。19 レメクはふたりの妻をめとしをつけられた。

った。ひとりの名はアダといい、ひとりの名はチラといった。**20** アダはヤバルを産んだ。彼は天幕に住んで、家畜を飼う者の先祖となつた。**21** その弟の名はユバルといつた。彼は琴や笛を執るすべての者の先祖となつた。**22** チラもまたトバルカインを産んだ。彼は青銅や鉄のすべての刃物を鍛える者となつた。トバルカインの妹をナアマといつた。**23** レメクはその妻たちに言つた、「アダとチラよ、わたしの声を聞け、レメクの妻たちよ、わたしの言葉に耳を傾けよ。わたしは受ける傷のために、人を殺し、受ける打ち傷のために、わたしは若者を殺す。**24** カインのための復讐が七倍ならば、レメクのための復讐は七十七倍」。**25** アダムはまたその妻を知つた。彼女は男の子を産み、その名をセツと名づけて言つた、「カインがアベルを殺したので、神はアベルの代りに、ひとりの子をわたしに授けられました」。**26** セツにもまた男の子が生れた。彼はその名をエノスと名づけた。この時、人々は主の名を呼び始めた。



そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしください。

彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。

人々はイエスの着物をくじ引きで分け合った。

ルカの福音書 23:34

ヨハネの福音書

にと、わたしをおつかわしになったそのか んとうのイスラエル人である。その心にはたが、わたしに言われた、『ある人の上に 偽りがない』。 48 ナタナエルは言った、「、御靈が下ってとどまるのを見たら、その どうしてわたしをご存じなのですか」。イ 人こそは、御靈によってバプテスマを授け エスは答えて言われた、「ピリポがあなたるかたである』。 34 わたしはそれを見たの を呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくで、このかたこそ神の子であると、あかし の木の下にいるのを見た」。 49 ナタナエルをしたのである』。 35 その翌日、ヨハネは 答えた、「先生、あなたは神の子です。またふたりの弟子たちと一緒に立っていた あなたはイスラエルの王です」。 50 イエスが、 36 イエスが歩いておられるのに目をと は答えて言われた、「あなたが、いちじくめて言った、「見よ、神の小羊」。 37 そ の木の下にいるのを見たと、わたしが言つふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞 たので信じるのか。これよりも、もっと大 いて、イエスについて行った。 38 イエスは きなことを、あなたは見るであろう」。 51 ふり向き、彼らがついてくるのを見て言わ また言われた、「よくよくあなたがたに言れた、「何か願いがあるのか」。彼らは言 っておく。天が開けて、神の御使たちが人 つた、「ラビ（訳して言えば、先生）どこ の子の上に上り下りするのを、あなたがたにおとまりなのでですか」。 39 イエスは彼ら は見るであろう」。

に言われた、「きてござんなさい。そうし たらわかるだろう」。そこで彼らはついて 行って、イエスの泊まっておられる所を見 た。そして、その日はイエスのところに泊 まつた。時は午後四時ごろであった。 40 ヨ ハネから聞いて、イエスについて行つたふ たりのうちのひとりは、シモン・ペテロの 兄弟アンデレであった。 41 彼はまず自分の 兄弟シモンに会って言った、「わたした ちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出 会つた」。 42 そしてシモンをイエスのもと につれてきた。イエスは彼に目をとめて言 われた、「あなたはヨハネの子シモンであ る。あなたをケパ（訳せば、ペテロ）と呼 ぶことにする」。 43 その翌日、イエスはガ リラヤに行こうとされたが、ピリポに出会 って言われた、「わたしに従ってきなさい」。 44 ピリポは、アンデレとペテロとの町 ベツサイダの人であった。 45 このピリポが ナタナエルに会って言った、「わたした ちは、モーセが律法の中にしるしており、 預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子 、ナザレのイエスにいま会つた」。 46 ナ タナエルは彼に言った、「ナザレから、なん のよいものがでようか」。ピリポは彼に 言つた、「きて見なさい」。 47 イエスはナ タナエルが自分の方に来るのを見て、彼に ついて言われた、「見よ、あの人こそ、ほ

2 三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて 、イエスの母がそこにいた。 2 イエスも 弟子たちも、その婚礼に招かれた。 3 ぶど う酒がなくなつたので、母はイエスに言つた、「ぶどう酒がなくなつてしましました」。 4 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがあり ますか。わたしの時は、まだきていません」。 5 母は僕たちに言つた、「このかたが 、あなたがたに言いつけることは、なんで もして下さい」。 6 そこには、ユダヤ人の きよめのならわしに従つて、それぞれ四、 五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあ つた。 7 イエスは彼らに「かめに水をいっ ぱい入れなさい」と言われたので、彼らは 口のところまでいっぱいに入れた。 8 そ こで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理 がしらのところに持つて行きなさい」。す ると、彼らは持つて行った。 9 料理がしら は、ぶどう酒になつた水をなめてみたが、 それがどこからきたのか知らなかつたので 、（水をくんだ僕たちは知つていた）花婿 を呼んで 10 言つた、「どんな人でも、初め によいぶどう酒を出して、酔いがまわつた ころにわるいのを出すものだ。それだのに 、あなたはよいぶどう酒を今までとつてお かれました」。 11 イエスは、この最初のし るしをガリラヤのカナで行い、その栄光を

現された。そして弟子たちはイエスを信じ 一緒にないなら、あなたがなさっておられた。 12 そののち、イエスは、その母、兄弟 るようなしるしは、だれにもできはしませたち、弟子たちと一緒に、カペナウムに下ん」。 3 イエスは答えて言われた、「よくって、幾日かそこにとどまられた。 13 さて よくあなたに言っておく。だれでも新しく、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イ 生れなければ、神の国を見ることはできなエスはエルサレムに上られた。 14 そして牛 い」。 4 ニコデモは言った、「人は年をと、羊、はとを売る者や両替する者などが宮 ってから生れることが、どうしてできますの庭にすわり込んでいるのをごらんになつ か。もう一度、母の胎にはいって生れること、 15 なわでむちを造り、羊も牛もみな宮 とができましようか」。 5 イエスは答えらから追いだし、両替人の金を散らし、その れた、「よくよくあなたに言っておく。だ台をひっくりかえし、 16 はとを売る人々に れでも、水と霊とから生れなければ、神のは「これらのものを持って、ここから出て 国にはいることはできない。 6 肉から生れ行け。わたしの父の家を商売の家とするなる者は肉であり、霊から生れる者は霊であ」と言われた。 17 弟子たちは、「あなたの る。 7 あなたがたは新しく生れなければな家を思う熱心が、わたしを食いつくすであ らないと、わたしが言ったからとて、不思ろう」と書いてあることを思い出した。 18 議に思うには及ばない。 8 風は思いのままそこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こ に吹く。あなたはその音を聞くが、それがなんことをするからには、どんなしるしを どこからきて、どこへ行くかは知らない。わたしたちに見せてくれますか」。 19 イエ 灵から生れる者もみな、それと同じであるスは彼らに答えて言われた、「この神殿を 」。 9 ニコデモはイエスに答えて言った、こわしたら、わたしは三日のうちに、それ 「どうして、そんなことがあり得ましようを起すであろう」。 20 そこで、ユダヤ人た か」。 10 イエスは彼に答えて言われた、「ちは言った、「この神殿を建てるのには、 あなたはイスラエルの教師でありながら、四十六年もかかっています。それなのに、 これぐらいのことがわからないのか。 11 よあなたは三日のうちに、それを建てるので くよく言っておく。わたしたちは自分の知すか」。 21 イエスは自分のからだである神 っていることを語り、また自分の見たこと殿のことを言われたのである。 22 それで、 をあかししているのに、あなたがたはわたしイエスが死人の中からよみがえったとき、 したちのあかしを受けいれない。 12 わたし弟子たちはイエスがこう言われたことを思 が地上のことを語っているのに、あなたがい出して、聖書とイエスのこの言葉とを信 たが信じないならば、天上のことを語ったじた。 23 過越の祭の間、イエスがエルサレ 場合、どうしてそれを信じるだろうか。 13 ムに滞在しておられたとき、多くの人々は 天から下ってきた者、すなわち人の子のほ、その行われたしるしを見て、イエスの名 かには、だれも天に上った者はない。 14 そを信じた。 24 しかしイエスご自身は、彼ら して、ちょうどモーセが荒野でへびを上げに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、 25 また人についてあかしする者を、必要とされなかつたからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。

3 パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。 2 この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご

16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るために、て永遠の命を得るためにある」。(aiōnios g166)

17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。 18 彼を信じる者は、さばかれな

い。信じない者は、すでにさばかれているは、神がまことであることを、たしかに認めたのである。**34** 神がおつかわしになったからである。 **35** 父は御子を愛してなく賜うからである。 **36** 御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあざかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。*(aiōnios g166)*

4 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、またバプテスマを授けておられるということを、パリサイ人たちが聞き、それを主が知られたとき、**2**（しかし、イエスみずからが、バプテスマをお授けになつたのではなく、その弟子たちであつた）**3** ユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。

4 しかし、イエスはサマリヤを通過しなければならなかつた。**5** そこで、イエスはサマリヤのスカルという町においでになつた。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあつたが、**6** そこにヤコブの井戸があつた。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであつた。**7** ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。**8** 弟子たちは食物を買ひに町に行っていたのである。**9** すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかつたからである。

10 イエスは答えて言われた、「もしあなが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言つた者が、だれであるか知つていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。**11** 女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか。**12** あなたは、この井戸を下さつたわたしたちの父ヤ

はのひと子の名を信じることをしないがこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。**20** 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。**21** しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。**22** こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。**23** ヨハネもサリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあつたからである。人々がぞくぞくとやってきてバプテスマを受けていた。**24** そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられてはいなかつた。**25** ところが、ヨハネの弟子たちとひとりのユダヤ人との間に、きよめのことでの争論が起つた。**26** そこで彼らはヨハネのところにきて言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。**27** ヨハネは答えて言った、「人は天から与えられなければ、何ものも受けけることはできない。**28** 『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である』と言つたことをあかししてくれるのは、あなたがた自身である。**29** 花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。**30** 彼は必ず榮え、わたしは衰える。**31** 上から来る者は、すべてのものの上にある。地から出る者は、地に属する者であつて、地のことを語る。天から来る者は、すべてのものの上有る。**32** 彼はその見たところ、聞いたところをあかししているが、だれもそのあかしを受けいれない。**33** しかし、そのあかしを受けいれる者

コブよりも、偉いかたなのですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。13 イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」

。 (aiōn g165, aiōnios g166) 15 女はイエスに言った

、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。16 イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行って、ここに連れてきなさい」。17 女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言ったのは、もっともだ。18 あなたには五人の

夫があつたが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」。**19** 女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。**20** わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。**21** イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエル

サレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。22あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。23しかし、まことの礼拝をする者たちが、靈とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、二重の礼拝をする者たちを戒め

は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。24 神は靈であるから、礼拝をする者も、靈とまこととをもって礼拝すべきである」。25 女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いつかいのことを見せて下さるでしょう」。

26 イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。 27

そのとき、弟子たちが帰って来て、イエス
がひとりの女と話しておられるのを見て不
思議に思ったが、しかし、「何を求めてお
られますか」とも、「何を彼女と話してお
られるのですか」とも、尋ねる者はひと
もなかつた。**28** この女は水がめをそのまま
そこに置いて町に行き、人々に言った、**29**
「わたしのしたことを何もかも、言いあて
た人がいます。さあ、見にきてごらんなさ
い」。しかし、たら、この人がカリコトかも

い。もしかしたら、この人がキリストかも

知れません」。30人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行つた。31その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがつてください」とすすめた。32ところがイ

「へたさい」とすすめに。32 ところが、エコは言わぬ。「ああ」には、ややもぎ

エスは言われた、「わたしには、あなたが
たの知らない食物がある」。33そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食
べるものを持ってきてさしあげたのである

うか」。34 イエスは彼らに言われた、「わ

たしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。35あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月ある

。 36 剣る者は報酬を受けて、永遠の命に至
り得る。しかし、わたしはあなたがたに言
う。目をあげて畠を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている

る実を集めている。まく者も刈る者も、共々に喜ぶためである。(aiōnios g166) 37 そこで

、『ひとりがまき、ひとりが刈る』ということわざが、ほんとうのこととなる。38わたしは、あなたがたをつかわして、あなたがたがそのために勞苦しなかつたものを刈

かたがそのために労苦しなかつたものを刈りとらせた。ほかの人々が労苦し、あなたはい、徳きの逆ぎの逆ぎの家にわざと、何日も

がたは、彼らの労苦の実にあずかっているのである」。39さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、「この人は、わたしのしたことを何もかも言いあてた」とあかし

た女の言葉によって、イエスを信じた。 40
そこで、サマリヤ人たちはイエスのもとにつきて、自分たちのところに滞在していただきたいと願ったので、イエスはそこにふつ

か滞在された。 41 そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。 42 彼らは

女に言った、「わたしたちが信じるのは、五つの廊があった。3その廊の中には、病もうあなたが話してくれたからではない。人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」。4ふつかの後に、イエスはここ、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を去ってガリラヤへ行かれた。5イエスは動かすことがあるが、水が動いた時まつみずからはつきり、「預言者は自分の故郷先にはいる者は、どんな病気にかかっているでは敬われないものだ」と言われたのである。6さて、5さて、6イエスはその人が横にも祭に行っていたので、その祭の時、イエスが動く時に、わたしを池の水をぶどう酒にかえられた所である。と中に入ってくれる人がいません。わたしがころが、病気をしているむすこを持つあるはいりかけると、ほかの人が先に降りて行役人がカペナウムにいた。7この病人はイエスに答える。8イエスは彼に言われた、「ダヤからガリラヤにイエスのきておられる起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きを聞き、みもとにきて、カペナウムにきなさい」。9すると、この人はすぐに下って、彼の子をおしていただきたいと願った。その子が死にかかっていたから、その日は安息日であった。10そこでユダヤ人である。11そこで、イエスは彼に言われたたちは、そのいやされた人に言った、「き、「あなたがたは、しるしと奇跡とを見なようは安息日だ。床を取りあげるのは、よい限り、決して信じないだろう」。12このろしくない」。13彼は答えた、「わたしを役人はイエスに言った、「主よ、どうぞ、おして下さったかたが、床を取りあげて子供が死なないうちにきて下さい」。14イエスは彼に言わされました」。15彼らは彼に言われた、「お帰りなさい。あは尋ねた、「取りあげて歩けと言った人はあなたのむすこは助かるのだ」。彼は自分に、だれか」。16しかし、このいやされた人言われたイエスの言葉を信じて帰って行つたは、それがだれであるか知らなかつた。群衆がその場にいたので、イエスはそつと出会い、その子が助かったことを告げた。17行かれたからである。18そのち、イエスは宮でその人に出会つたので、彼に言わめた時刻を尋ねてみたら、「きのうの午後れた、「ごらん、あなたはよくなつた。も一時に熱が引きました」と答えた。19それう罪を犯してはいけない。何かもっと悪いは、イエスが「あなたのむすこは助かるのことが、あなたの身に起るかも知れないかだ」と言われたのと同じ時刻であったこと」。20彼は出て行って、自分をいやしたを、この父は知って、彼自身もその家族一のはイエスであったと、ユダヤ人たちに告同も信じた。21これは、イエスがユダヤかけた。22そのためユダヤ人たちは、安息日からガリラヤにきてなされた第二のしでにこのようなことをしたと言つて、イエスを責めた。23そこで、イエスは彼らに答えた。

5 こののち、ユダヤ人の祭があったので、イエスはエルサレムに上られた。**2**エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスマと呼ばれる池があった。そこには

2

ヨハネの福音書

イエスが安息日を破られたばかりではなく、神を自分の父と呼んで、自分を神と等しいものとされたからである。 19さて、イエスは彼らに答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。なぜなら、父は子を愛して、みずからなさることは、すべて子にお示しになるからである。そして、それよりもなお大きなわざを、お示しになるであろう。あなたが、それによって不思議に思うためではだれをもさばかれない。さばきのことはすべて、子にゆだねられたからである。それは、すべての人が父を敬うと同様に、子を敬うためである。子を敬わない者は、子をつかわされた父をも敬わない。 24よくよくあなたがたに言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け、またさばかれることなく、死から命に移っているのである。(aiōnios g166) 25よくよくあなたがたに言っておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。 26それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになっていく同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになったからである。 27そして子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与えになった。 28このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者善をおこなう人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう。 30わたしは、自分から何事もすることができない。ただ聞くだけである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。 31もし、わたしが自分自身についてあいものとされたからである。 32わたしについてあかしをするかたはほかにあり、そして、その人がするかたはほかにあり、そして、その人がするあかしがほんとうであることを、わたしは知っている。 33あなたがたはヨハネの理についてあかしをした。 34わたしは人かなさることは、あらかしを受けないが、このことを言うのらである。そして、それよりもなお大きなかたは、あなたがたが救われるためである。 35ヨハネは燃えて輝くあかりであった。あなたが、たがたは、しばらくの間その光を喜び樂しむとした。 36しかし、わたしには、ヨハネのあかしよりも、もっと力あるあかしがある。父がわたしに成就させようとしてお与えになったわざ、すなわち、今わたしがしているこのわざが、父のわたしをつかわされたことをあかししている。 37また、わたしをつかわされた父も、ご自分でわたしについてあかしをされた。あなたがたは、まだそのみ声を聞いたこともなく、そのみ姿を見たこともない。 38また、神がつかわされた者を信じないから、神の御言はあなたがたのうちにとどまっている。 39あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。(aiōnios g166) 40しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようともしない。 41わたしは人からの誓を受けすることはしない。 42しかし、あなたがたのうちには神を愛する愛がないことを知っている。 43わたしは父の名によってきたのに、あなたがたはわたしを受けいれない。もし、ほかの人が彼自らを驚くには及ばない。墓の中にいる者身の名によって来るならば、その人を受けなった人々は、生命を受けするためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくるあなたがたは、どうして信じることがある時が来るであろう。 44互に誓を受けながらいれるのである。 45わたしはあなたがたのことらは父に訴えると、考へてはいけない。あなたがたを訴える者は、あなたがたが頼みとこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考へでするのではなく、わたしをつかわされたかたがモーセの人である。 46もし、あなたの考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたがモーセを信じたならば、わたし

をも信じたであろう。モーセは、わたしについて書いたのである。**47**しかし、モーセの書いたものを信じないならば、どうしてわたしの言葉を信じるだろうか」。

6 その後、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。**2**すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしを見たからである。**3**イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。**4**時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になっていた。**5**イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まって来るのを見て、ピリポに言われた、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」。**6**これはピリポをためそうとして言われたのであって、ご自分でしようとするこを、よくご承知であった。**7**すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあつても、めいめいが少しづついただくにも足りますまい」。**8**弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、**9**「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりますまい」。**10**イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。そこにすわった男の数は五千人ほどであった。**11**そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。**12**人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」。**13**そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。**14**人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。**15**イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。**16**夕方になったとき、弟子たちは海べに下り

、**17**舟に乗って海を渡り、向こう岸のカペナウムに行きかけた。すでに暗くなつたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかつた。**18**その上、強い風が吹いてきて、海は荒れ出した。**19**四、五十丁こぎ出したとき、イエスが海の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れた。**20**すると、イエスは彼らに言われた、「わたしだ、恐れることはない」。**21**そこで、彼らは喜んでイエスを舟に迎えようとした。すると舟は、すぐ、彼らが行こうとしていた地に着いた。**22**その翌日、海の向こう岸に立っていた群衆は、そこに小舟が一そうしかなく、またイエスは弟子たちと一緒に小舟にお乗りにならず、ただ弟子たちだけが船出したのを見た。**23**しかし、数そうの小舟がテベリヤからきて、主が感謝されたのちパンを人々に食べさせた場所に近づいた。**24**群衆は、イエスも弟子たちもそこにはないと知って、それらの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナウムを行つた。**25**そして、海の向こう岸でイエスに出会つたので言った、「先生、いつ、ここにおいでになつたのですか」。**26**イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。**27**朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。(aiōnios g166)**28**そこで、彼らはイエスに言った、「神のわざを行つるために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか」。

29イエスは彼らに答えて言われた、「神がつかわされた者を信じることが、神のわざである」。**30**彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行つて下さいますか。どんなことをして下さいますか。**31**わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。**32**そこでイ

エスは彼らに言わされた、「よくよく言っておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。35 イエスは彼らに言わされた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。36 しかし、あなたがたに言ったが、あなたがたはわたしを見たのに信じようとはしない。37 父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはない。38 わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。39 わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。40 わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。*(aiōnios g166)* 41 ユダヤ人らは、イエスが「わたしは天から下ってきたパンである」と言われたので、イエスについてつぶやき始めた。42 そして言つた、「これはヨセフの子イエスではないか。わたしたちはその父母を知っているではないか。わたしは天から下ってきたと、どうして今いうのか」。43 イエスは彼らに答えて言われた、「互につぶやいてはいけない。44 わたしをつかわされた父が引きよせて下さらなければ、だれもわたしに来ることはできない。わたしは、その人々を終りの日によみがえらせるであろう。45 預言者の書に、『彼らはみな神に教えられるであろう』と書いてある。父から聞いて学んだ者は、みなわたしに來るのである。46 神から出た者のほかに、だれかが父を見た

る。47 よくよくあなたがたに言っておく。信じる者には永遠の命がある。*(aiōnios g166)* 48 わたしは命のパンである。49 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。50 しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。51 わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である」。*(aiōn g165)* 52 そこで、ユダヤ人らが互に論じて言った、「この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができようか」。53 イエスは彼らに言わされた、「よくよく言っておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。*(aiōnios g166)* 55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。57 生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによつて生きるであろう。58 天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう」。*(aiōn g165)* 59 これらのことは、イエスがカペナウムの会堂で教えておられたときに言われたものである。60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。61 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破つて、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか」。62 それでは、もしこの人が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。63 人を生かすものは靈である。64 しかし、あなたがたに話した言葉は靈であり、まのではない。その者だけが父を見たのである。64 しかし、あなたがたの中に

は信じない者がいる」。イエスは、初めからだれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知つておられたのである。**65** それ以来、多くの弟子たちは去つていった。そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。**68** シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。

(aiōnios g166) **69** わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。**70** イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなく、あなたがたのうちのひとりは悪魔である」。**71** これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

7 そののち、イエスはガリラヤを巡回しておられた。ユダヤ人たちが自分を殺そうとしていたので、ユダヤを巡回しようとはされなかつた。**2** 時に、ユダヤ人の仮庵の祭が近づいていた。**3** そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った、「あなたがしておられるわざを弟子たちにも見せるために、ここを去りユダヤに行ってはいかがです。」**4** 自分を公けにあらわそうと思っている人で、隠れて仕事をするものはありません。あなたがこれらのことをするからには、自分をはつきりと世にあらわしなさい」。**5** こう言ったのは、兄弟たちもイエスを信じていなかつたからである。**6** そこでイエスは彼らに言われた、「わたしの時はまだきていない。しかし、あなたがたの時はいつも備わっている。**7** 世はあなたがたを憎み得ないが、わたしを憎んでいる。わたしが世のおこないの悪いことを、あかししているからである。**8** あなたがたこそ祭に行きなさい。わたしはこの祭には行かない。わ

らといって、どうして、そんなにおこるのか。36 また、『わたしを捜すが、見つけるか。24 うわべで人をさばかないで、正しいことはできない。そしてわたしのいる所にさばきをするがよい』。25 さて、エルサレムは来ることができないだろう』と言ったそムのある人たちが言った、「この人は人々の言葉は、どういう意味だろう」。37 祭のが殺そうと思っている者ではないか。26 見終りの大事な日に、イエスは立って、叫んよ、彼は公然と語っているのに、人々はここで言われた、「だれでもかわく者は、われに對して何も言わない。役人たちは、こしのところにきて飲むがよい。38 わたしをの人がキリストであることを、ほんとうに信じる者は、聖書に書いてあるとおり、そ知っているのではなかろうか。27 わたしたちの腹から生ける水が川となって流れ出でちはこの人がどこからきたのか知っているあろう」。39 これは、イエスを信じる人々。しかし、キリストが現れる時には、どこが受けようとしている御靈をさして言われから来るのか知っている者は、ひとりもいたのである。すなわち、イエスはまだ栄光ない」。28 イエスは宮の内で教えながら、を受けておられなかったので、御靈がまだ叫んで言われた、「あなたがたは、わたし下っていなかつたのである。40 群衆のあるを知つており、また、わたしがどこからき者がこれらの言葉を聞いて、「このかたはたかも知っている。しかし、わたしは自分、ほんとうに、あの預言者である」と言いからきたのではない。わたしをつかわされ、41 ほかの人たちは「このかたはキリストたかたは真実であるが、あなたがたは、そである」と言い、また、ある人々は、「キのかたを知らない。29 わたしは、そのかたリストはまさか、ガリラヤからは出てこなを知っている。わたしはそのかたのもとかいだらう。42 キリストは、ダビデの子孫からきた者で、そのかたがわたしをつかわさら、またダビデのいたベツレヘムの村かられたのである」。30 そこで人々はイエスを出ると、聖書に書いてあるではないか」と捕えようと計ったが、だれひとり手をかけ言つた。43 こうして、群衆の間にイエスのる者はなかつた。イエスの時が、まだきてことで分争が生じた。44 彼らのうちのあるいはなかつたからである。31 しかし、群衆の人々は、イエスを捕えようと思ったが、だ中の多くの者が、イエスを信じて言った、れひとり手をかける者はなかつた。45 さて「キリストがきても、この人が行ったより、下役どもが祭司長たちやパリサイ人たちも多くのしるしを行なうだろうか」。32 群衆のところに帰ってきたので、彼らはその下がイエスについてこのようなうわさをして役どもに言った、「なぜ、あの人を連れているのを、パリサイ人たちは耳にした。そこなかつたのか」。46 下役どもは答えた、こで、祭司長たちやパリサイ人たちは、イ「この人の語るように語った者は、これまエスを捕えようとして、下役どもをつかわでにありませんでした」。47 パリサイ人たした。33 イエスは言われた、「今しばらくちが彼らに答えた、「あなたがたまでが、の間、わたしはあなたがたと一緒にいて、だまされているのではないか」。48 役人たちそれから、わたしをおつかわしになったかやパリサイ人たちの中で、ひとりでも彼をたのみもとに行く。34 あなたがたはわたし信じた者があつただろうか。49 律法をわきを捜すであろうが、見つけることはできなまえないこの群衆は、のろわれている」。い。そしてわたしのいる所に、あなたがた50 彼らの中のひとりで、以前にイエスに会は来ることができない」。35 そこでユダヤ人にきたことのあるニコデモが、彼らに言人たちは互に言った、「わたしたちが見つかった、51 「わたしたちの律法によれば、まけることができないというのは、どこへ行はずその人の言い分を聞き、その人のしたこうとしているのだろう。ギリシヤ人の中とを知った上でなければ、さばくことをしに離散している人たちのところにでも行つないのでないのではないか」。52 彼らは答えて言つて、ギリシヤ人を教えようというのだろうた、「あなたもガリラヤ出なのか。よく調

べてみなさい、ガリラヤからは預言者が出 わたしがどこからきて、どこへ行くのかを るものではないことが、わかるだろう」。知らない。**15**あなたがたは肉によって人を
〔**53**そして、人々はおの家の家に帰って行 さばくが、わたしはだれもさばかない。**16**

つた。

8イエスはオリブ山に行かれた。**2**朝早く
また宮にはいられると、人々が皆みもとに集まってきたので、イエスはすわって彼らを教えておられた。**3**すると、律法学者たちやパリサイ人たちが、姦淫をしている時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた上、イエスに言った、**4**「先生、この女は姦淫の場でつかまえられました。**5**モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう思いますか」。**6**彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴える口実を得るためにであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。**7**彼らが問い合わせるので、イエスは身を起して彼らに言われた、「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」。**8**そしてまた身をかがめて、地面に物を書きつけられた。**9**これを聞くと、彼らは年寄から始めて、ひとりびとで出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された。**10**そこでイエスは身を起して女に言われた、「女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか」。**11**女は言った、「主よ、だれもございません」。イエスは言われた、「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。〕**12**イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従つて来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。**13**するとパリサイ人たちがイエスに言った、「あなたは、自分のことをあかししている。あなたのあかしは真実ではない」。**14**イエスは彼らに答えて言われた、「たとい、わたしが自分のことをあかししても、わたしのあかしは真実である。それは、わたしがどこからきたのか、また、どこへ行くのかを知っているからである。しかし、あなたがたは、

わたしがどこからきて、どこへ行くのかを さばくが、わたしはだれもさばかない。**16**
しかし、もしわたしがさばくとすれば、わたしのさばきは正しい。なぜなら、わたしはひとりではなく、わたしをつかわされたかたが、わたしと一緒にだからである。**17**あなたがたの律法には、ふたりによる証言は真実だと、書いてある。**18**わたし自身のことをあかしするのは、わたしであるし、わたしをつかわされた父も、わたしのことをあかしして下さるのである」。**19**すると、彼らはイエスに言った、「あなたの父はどこにいるのか」。イエスは答えられた、「あなたがたは、わたしをもわたしの父をも知っていない。もし、あなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたであろう」。**20**イエスが宮の内で教えていた時、これらの言葉をさいせん箱のそばで語られたのであるが、イエスの時がまだきていないかったので、だれも捕える者がなかつた。**21**さて、また彼らに言われた、「わたしは去つて行く。あなたがたはわたしを捜し求めるであろう。そして自分の罪のうちに死ぬであろう。わたしの行く所には、あなたがたは来ることができない」。**22**そこでユダヤ人たちは言った、「わたしの行く所に、あなたがたは来ることができないと、言ったのは、あるいは自殺でもしようとするつもりか」。**23**イエスは彼らに言われた、「あなたがたは下から出た者だが、わたしは上からきた者である。あなたがたはこの世の者であるが、わたしはこの世の者ではない。**24**だからわたしは、あなたがたは自分の罪のうちに死ぬであろうと、言ったのである。もしわたししがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである」。**25**そこで彼らはイエスに言った、「あなたは、いったい、どういうかたですか」。イエスは彼らに言われた、「わたしがどういう者であるかは、初めからあなたがたに言っているではないか。**26**あなたがたについて、わたしの言うべきこと、さばくべき

ことが、たくさんある。しかし、わたしを ラハムの子であるなら、アブラハムのわざつかわされたかたは真実なかたである。わ をするがよい。 40 ところが今、神から聞いたしは、そのかたから聞いたままを世にむ た真理をあなたがたに語ってきたこのわたかつて語るのである」。 27 彼らは、イエス しを、殺そうとしている。そんなことをア が父について話しておられたことを悟らな ブラハムはしなかった。 41 あなたがたは、かつた。 28 そこでイエスは言われた、「あ あなたがたの父のわざを行っているのであ ながたがたが人の子を上げてしまった後はじ る」。彼らは言った、「わたしたちは、不 めて、わたしがそういう者であること、ま 品行の結果うまれた者ではない。わたした た、わたしは自分からは何もせず、ただ父 ちにはひとりの父がある。それは神である が教えて下さったままを話していたことが 」。 42 イエスは彼らに言われた、「神があ 、わかってくるであろう。 29 わたしをつか なたがたの父であるならば、あなたがたは わされたかたは、わたしと一緒におられる わたしを愛するはずである。わたしは神か 。わたしは、いつも神のみこころにかなう ら出た者、また神からきている者であるか ことをしているから、わたしをひとり置き らだ。わたしは自分からきたのではなく、ざりになさることはない」。 30 これらのこ 神からつかわされたのである。 43 どうしてとを語られたところ、多くの人々がイエス あなたがたは、わたしの話すことがわから を信じた。 31 イエスは自分を信じたユダヤ ないのか。あなたがたが、わたしの言葉を 人たちに言われた、「もしわたしの言葉の 悟ることができないからである。 44 あなた うちにとどまっておるなら、あなたがたは がたは自分の父、すなわち、悪魔から出て 、ほんとうにわたしの弟子なのである。 32 きた者であって、その父の欲望どおりを行 また真理を知るであろう。そして真理は、 おうと思っている。彼は初めから、人殺し あなたがたに自由を得させるであろう」。 であって、真理に立つ者ではない。彼のう 33 そこで、彼らはイエスに言った、「わた ちには真理がないからである。彼が偽りを したちはアブラハムの子孫であって、人の 言うとき、いつも自分の本音をはいでいる 奴隸になったことなどは、一度もない。ど のである。彼は偽り者であり、偽りの父で うして、あなたがたに自由を得させるであ あるからだ。 45 しかし、わたしが真理を語 ろうと、言われるのか」。 34 イエスは彼ら っているので、あなたがたはわたしを信じ に答えられた、「よくよくあなたがたに言 ようとしない。 46 あなたがたのうち、だれ っておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隸で がわたしに罪があると責めうるのか。わた ある。 35 そして、奴隸はいつまでも家にい しは真理を語っているのに、なぜあなたが る者ではない。しかし、子はいつまでもい たは、わたしを信じないのか。 47 神からき る。(aiōn g165) 36 だから、もし子があなたが た者は神の言葉に聞き従うが、あなたがた に自由を得させるならば、あなたがたは が聞き従わないのは、神からきた者でない 、ほんとうに自由な者となるのである。 37 からである」。 48 ユダヤ人たちはイエスに わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫 答えて言った、「あなたはサマリヤ人で、 であることを知っている。それなのに、あ 惡霊に取りつかれていると、わたしたちが なたがたはわたしを殺そうとしている。わ 言うのは、当然ではないか」。 49 イエスは たしの言葉が、あなたがたのうちに根をお 答えられた、「わたしは、悪霊に取りつか ろしていないからである。 38 わたしはわた れているのではなくて、わたしの父を重ん しの父のもとで見たことを語っているが、じ ているのだが、あなたがたはわたしを軽 あなたがたは自分の父から聞いたことを行 んじている。 50 わたしは自分の栄光を求めて いる」。 39 彼らはイエスに答えて言つ てはいない。それを求めるかたが別にあるた、「わたしたちの父はアブラハムである。そのかたは、またさばくかたである。 51 」。イエスは彼らに言われた、「もしアブ よくよく言っておく。もし人がわたしの言

葉を守るならば、その人はいつまでも死を見ることがないであろう」。(aiōn g165) 52 ユダヤ人たちが言った、「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今わかった。アブラハムは死に、預言者たちも死んでいる。それなのに、あなたは、わたしの言葉を守る者はいつまでも死を味わうことがないであろうと、言われる。(aiōn g165) 53 あなたは、わたしたちの父アブラハムより偉いのだろうか。彼も死に、預言者たちも死んだではないか。あなたは、いったい、自分をだされと思っているのか」。54 イエスは答えられた、「わたしの榮光は、むなしいものである。わたしに榮光を与えるかたは、わたしの父であって、あなたがたが自分の神だと言っているのは、そのかたのことである。55 あなたがたはその神を知っていないが、わたくしは知っている。もしわたくしが神を知らないと言うならば、あなたがたと同じよう偽り者であろう。しかし、わたくしはそれを見て喜んだ」。56 そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十歳で、わたくしの目を見ようとして楽しんでいた。そして、わたくしは、わたくしの父アブラハムは、わたくしのことを、『この人はどこにいるのか』」。彼は「知りません」と答えた。57 そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十歳で、わたくしの目を見ようとして楽しんでいた。そして、わたくしは、わたくしの父アブラハムを見たのか」。58 イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前からわたくしは、いるのである」。59 そこで彼らは石をとって、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

9 イエスが道をとおっておられるとき、生れつきの盲人を見られた。2 弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。3 イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。4 わたしたちは、わたくしをつかわされたかたのわざを、

昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。5 わたしは、この世にいる間は、世の光である」。6 イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、7 「シロアム(つかわされた者、の意)の池に行って洗いなさい」。そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った。8 近所の人々や、彼がもと、こじきであった人々を見知っていた人々が言った、「この人は、すわってこじきをしていた者ではないか」。9 ある人々は「その人だ」と言い、他の人々は「いや、ただあの人に似ているだけだ」と言った。しかし、本人は「わたしの父だけだ」と言った。10 そこで人々は彼言っているのは、そのかたのことである。に言った、「では、おまえの目はどうして見えますか」。11 彼は答えた、「イエスとあなたがたは同じよに塗り、『シロアムに行って洗え』と言わうな偽り者であろう。しかし、わたくしはそれを知り、その御言を守っている。12 あなたがたの父アブラハムは、わたくしの目を見ようとして楽しんでいた。そして、わたくしは、わたくしの父アブラハムを見たのか」。彼は「知りません」と答えた。13 人々は、もと盲人であったこの人を、パリサイ人たちのところに連れていった。14 イエスがどろをつくって彼の目を開いたのは、安息日であった」。15 パリサイ人たちもまた、「どうして見るようになつたのか」、と彼に尋ねた。16 そこで、あるパリサイ人たちが言った、「その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから」。しかし、ほかの人々は言った、「罪のある人が、どうしてそのようなしるしを行うことができようか」。そして彼らの間に分争が生じた。17 そこで彼らは、もう一度この盲人に聞いた、「おまえの目を開けてくれたその人を、どう思うか」。「預言者だと思います」と彼は言った。18 ユダヤ人たちは、彼がもと盲人であったが見えるようになったことを、まだ信じなかった。ついに彼らは、目が見えるようにな

ったこの人の両親を呼んで、**19** 尋ねて言った、「これが、生れつき盲人であったと、おまえたちの言っているむすこか。それではどうして、いま目が見えるのか」。**20** 両親は答えて言った、「これがわたしどものむすこであること、また生れつき盲人であることは存じています。**21** しかし、どう、「おまえは全く罪の中に生れていたながらしていま見えるようになったのか、それは、わたしたちを教えようとするのか」。そ知りません。また、だれがその目をあけて下さったのかも知りません。あれに聞いて下さい。あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょう」。**22** 両親はユダヤ人たちを恐れていたので、こう答えたのである。それは、もしイエスをキリストと告白する者があれば、会堂から追い出すことになる。ユダヤ人たちが既に決めていたからである。**23** 彼の両親が「おとなのです」と答えた。すると彼は、「あなたは、もうその人に会っていませんから、あれに聞いて下さい」と言ったのは、そのためであった。**24** そこで彼らは、盲人は神に栄光を帰するがよい。あの人が罪人でない人たちが見えるようになり、見える人があることは、わたしたちにはわかっている」。**25** すると彼は言った、「あなたのたが罪であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲であったが、今は見えるということです」。**26** そこで彼らは言った、「その人はおまえに何をしたのか。どんなにしておまえの目をあけたのか」。**27** 彼は答えた、「見える」と言い張るところに、あなたがたのことはもう話してあげたのに、聞いてくれませんでした。なぜまた聞こうとするのですか。あなたがたも、あの人の弟子になりたいのですか」。**28** そこで彼らは彼をののしって言った、「おまえはあれの弟子だが、わたしたちはモーセの弟子だ。**29** モーセに神が語られたということは知っています。だが、あの人がどこからきた者か、わたしたちは知らぬ」。**30** そこで彼が答えて言った、「わたしの目をあけて下さったのに、そのたがどこからきたか、ご存じないとは、不思議千万です。**31** わたしたちはこのことを知っています。神は罪人の言うことはお聞きいれになりませんが、神を敬い、そのみこころを行う人の言うことは、聞きいれて下さいます。**32** 生れつき盲であった者の目をあけた人があるということは、世界が始まって以来、聞いたことがありません。(aiōn g165) **33** もしあのかたが神からきた人でなかったら、何一つできなかつたはずです」。**34** これを聞いて彼らは言ったて彼を外へ追い出した。**35** イエスは、そ下さったの人が外へ追い出されたことを聞かれた。そして彼に会って言われた、「あなたは人の子を信じるか」。**36** 彼は答えて言った、「主よ、それはどなたですか。そのたを信じたいのですが」。**37** イエスは彼に言わされた、「あなたは、もうその人に会っていませんから、あれに聞いて下さい」と言って、イエスを拝した。**38** すると彼は、「主よ、信じますから、あれに聞いて下さい」と言ったのは、そのためにいたあるパリサイ人であるかどうか、わたしは知りません。人々が、それを聞いてイエスに言った、「それでは、わたしたちも盲なのでしょうか」。**40** そこにイエスと一緒にいたある羊の囲いにはいるのに、門からではなく、ほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である。**2** 門からはいる者は、羊の羊飼である。**3** 門番は彼のために門を開き、羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。**4** 自分の羊をみな出してしまって、彼は羊の先頭に立つて行く。羊はその声を知っているので、彼について行くのである。**5** ほかの人には、ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである」。**6** イエスは彼らにこの比喩を話されたが、彼らは自分たちにお話しになっているのが何のことだか、わ

からなかつた。 7 そこで、イエスはまた言 の祭が行われた。時は冬であった。 23 イエ
われた、「よくよくあなたがたに言ってお スは、宮の中にあるソロモンの廊を歩いて
く。わたしは羊の門である。 8 わたしより おられた。 24 するとユダヤ人たちが、イエ
も前にきた人は、みな盗人であり、強盗で スを取り囲んで言った、「いつまでわたし
ある。羊は彼らに聞き従わなかつた。 9 わ たちを不安のままにしておくのか。あなた
たしは門である。わたしをとおってはいる がキリストであるなら、そうとはつきり言
者は救われ、また出入りし、牧草にありつ つていただきたい」。 25 イエスは彼らに答
くであろう。 10 盗人が来るのは、盗んだり えられた、「わたしは話したのだが、あな
、殺したり、滅ぼしたりするためにはかな たがたは信じようとしない。わたしの父の
らない。わたしがきたのは、羊に命を得さ 名によつてしているすべてのわざが、わた
せ、豊かに得させるためである。 11 わたし しのことをあかししている。 26 あなたがた
はよい羊飼である。よい羊飼は、羊のため が信じないのは、わたしの羊でないからで
に命を捨てた。 12 羊飼ではなく、羊が自分 ある。 27 わたしの羊はわたしの声に聞き従
るものでもない雇人は、おおかみが来るの う。わたしは彼らを知つており、彼らはわ
を見ると、羊をすべて逃げ去る。そして、たしについて来る。 28 わたしは、彼らに永
おおかみは羊を奪い、また追い散らす。 13 遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも
彼は雇人であつて、羊のことを心にかけて も滅びることがなく、また、彼らをわたし
いながらある。 14 わたしはよい羊飼で の手から奪い去る者はない。(aiōn g165, aiōnios
あって、わたしの羊を知り、わたしの羊は g166) 29 わたしの父がわたしに下さつたもの
また、わたしを知つてゐる。 15 それはちよ は、すべてにまさるものである。そしてだ
うど、父がわたしを知つておられ、わたし れも父のみ手から、それを奪い取ることは
が父を知つてゐるのと同じである。そして できない。 30 わたしと父とは一つである
、わたしは羊のために命を捨てるのである。 31 そこでユダヤ人たちは、イエスを打ち
。 16 わたしにはまた、この匂いにいゝ他 殺そうとして、また石を取りあげた。 32 す
の羊がある。わたしは彼らをも導かねばな るとイエスは彼らに答えられた、「わたし
らない。彼らも、わたしの声に聞き従うでは、父による多くのよいわざを、あなたが
あろう。そして、ついに一つの群れ、ひと たに示した。その中のどのわざのために、
りの羊飼となるであろう。 17 父は、わたし わたしを石で打ち殺そうとするのか」。 33
が自分の命を捨てるから、わたしを愛して ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石で殺
下さるのである。命を捨てるのは、それを そうとするのは、よいわざをしたからでは
再び得るためである。 18 だれかが、わたし なく、神を汚したからである。また、あな
からそれを取り去るのではない。わたしが たは人間であるのに、自分を神としている
、自分からそれを捨てるのである。わたし からである」。 34 イエスは彼らに答えられ
には、それを捨てる力があり、またそれを た、「あなたがたの律法に、『わたしは言
受ける力もある。これはわたしの父から授 う、あなたがたは神々である』と書いてあ
かつた定めである」。 19 これらの言葉を語 るではないか。 35 神の言を託された人々が
られたため、ユダヤ人の間にまたも分争が 、神々といわれておるとすれば、(そして
生じた。 20 そのうちの多くの者が言った、聖書の言は、すたることがあり得ない) 36
「彼は悪霊に取りつかれて、気が狂つて 父が聖別して、世につかわされた者が、『
る。どうして、あなたがたはその言うこと わたしは神の子である』と言つたからとて
を聞くのか」。 21 他の人々は言った、「そ 、どうして『あなたは神を汚す者だ』と言
れは悪霊に取りつかれた者の言葉ではない うのか。 37 もしわたしが父のわざを行わ
。悪霊は盲人の目をあけることができよう いとすれば、わたしを信じなくてもよい。
か」。 22 そのころ、エルサレムで宮きよめ 38 しかし、もし行つてゐるなら、たといわ

たしを信じなくても、わたしのわざを信じ したら、助かるでしょう」。13 イエスはラ
るがよい。そうすれば、父がわたしにおり ザロが死んだことを言わされたのであるが、
、また、わたしが父におることを知つて悟 弟子たちは、眠つて休んでいることをさし
るであろう」。39 そこで、彼らはまたイエ て言われたのだと思った。14 するとイエス
スを捕えようとしたが、イエスは彼らの手 は、あからさまに彼らに言われた、「ラザ
をのがれて、去つて行かれた。40 さて、イ ロは死んだのだ。15 そして、わたしがそこ
エスはまたヨルダンの向こう岸、すなわち にいあわせなかつたことを、あなたがたの
、ヨハネが初めにバプテスマを授けていた ために喜ぶ。それは、あなたがたが信じる
所に行き、そこに滞在しておられた。41 多 ようになるためである。では、彼のところ
くの人々がイエスのところにきて、互に言 行こう」。16 するとデドモと呼ばれてい
つた、「ヨハネはなんのしも行わなか るトマスが、仲間の弟子たちに言つた、「
ったが、ヨハネがこのかたについて言つた わたしたちも行って、先生と一緒に死のう
ことは、皆ほんとうであった」。42 そして ではないか」。17 さて、イエスが行ってご
、そこで多くの者がイエスを信じた。

11 さて、ひとりの病人がいた。ラザロと
いい、マリヤとその姉妹マルタの村ベ
タニヤの人であった。2 このマリヤは主に
香油をぬり、自分の髪の毛で、主の足をふ
いた女であつて、病気であったのは、彼女の兄弟ラザロであった。3 姉妹たちは人を
イエスのもとにつかわして、「主よ、ただ
今、あなたが愛しておられる者が病気をし
ています」と言わせた。4 イエスはそれを
聞いて言われた、「この病気は死ぬほどの
ものではない。それは神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのものである」。5 イエスは、マルタと
その姉妹とラザロとを愛しておられた。6
ラザロが病気であることを聞いてから、な
おふつか、そのおられた所に滞在された。
7 それから弟子たちに、「もう一度ユダヤに
行こう」と言われた。8 弟子たちは言つた
、「先生、ユダヤ人らが、さきほどもあなたを石で殺そうとしていましたのに、またそ
こに行かれるのですか」。9 イエスは答
えられた、「一日には十二時間あるではないか。昼間あるければ、人はつまずくことは
ない。この世の光を見ているからである。
10 しかし、夜あるけば、つまずく。その人のうちに、光がないからである」。11 そう
言われたが、それからまた、彼らに言われ
た、「わたしたちの友ラザロが眠つて
いる。わたしは彼を起しに行く」。12 すると弟
子たちは言つた、「主よ、眠つてるので

らんになると、ラザロはすでに四日間も墓
の中に置かれていた。18 ベタニヤはエルサ
レムに近く、二十五丁ばかり離れたところ
にあった。19 大ぜいのユダヤ人が、その兄
弟のことで、マルタとマリヤとを慰めよう
としてきていた。20 マルタはイエスがこ
られたと聞いて、出迎えに行ったが、マリヤ
は家ですわっていた。21 マルタはイエスに
言つた、「主よ、もしあなたがここにいて
下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつ
たでしょう。22 しかし、あなたがどんなこ
とをお願いになつても、神はかなえて下さ
ることを、わたしは今でも存じています」
。23 イエスはマルタに言われた、「あなたの
兄弟はよみがえるであろう」。24 マルタ
は言つた、「終りの日のよみがえりの時よ
みがえることは、存じています」。25 イエ
スは彼女に言われた、「わたしはよみがえ
りであり、命である。わたしを信じる者は
、たとい死んでも生きる。26 また、生きて
いて、わたしを信じる者は、いつまでも死
なない。あなたはこれを信じるか」。
(aiōn g165) 27 マルタはイエスに言つた、「主よ、
信じます。あなたがこの世にきたるべきキ
リスト、神の御子であると信じております
」。28 マルタはこう言つてから、帰つて姉
妹のマリヤを呼び、「先生がおいでになつ
て、あなたを呼んでおられます」と小声で
言つた。29 これを聞いたマリヤはすぐ立ち
上がって、イエスのもとに行つた。30 イエ
スはまだ村に、はいってこられず、マルタ

がお迎えしたその場所におられた。 31 マリヤたちは、イエスを信じた。 46 しか
ヤと一緒に家について彼女を慰めていたユダヤ人と、そのうちの数人がパリサイ人たちのと
ヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がってころに歩いて、イエスのされたことを告げ
出て行くのを見て、彼女は墓に泣きに行くた。 47 そこで、祭司長たちとパリサイ人たち
のであろうと思い、そのあとからついて行つては、議会を召集して言った、「この人
たつた。 32 マリヤは、イエスのおられる所に多くのしるしを行っているのに、お互
は行ってお目にかかり、その足もとにひれ伏して何をしているのだ。 48 もしこのままにして
して言った、「主よ、もしあなたがここにければ、みんなが彼を信じるようになるだ
いで下さったなら、わたしの兄弟は死なない。そのうえ、ローマ人がやってきて、
かたつでしよう」。 33 イエスは、彼女が泣くわたしたちの土地も人民も奪ってしまうで
き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちがあろう」。 49 彼らのうちのひとりで、その
も泣いているのをごらんになり、激しく感動する大祭司であったカヤバが、彼らに言つ
動し、また心を騒がせ、そして言われた、「あなたがたは、何もわかっていない
34 「彼をどこに置いたのか」。彼らはイエスを、 50 ひとりの人が人民に代って死んで、
スに言つた、「主よ、きて、ごらん下さい。全国民が滅びないようにになるのがわたした
」。 35 イエスは涙を流された。 36 するとちにとて得だということを、考へてもい
ユダヤ人たちは言つた、「ああ、なんと彼がない」。 51 このことは彼が自分から言つた
を愛しておられたことか」。 37 しかし、彼のではない。彼はこの年の大祭司であつたら
のある人たちは言つた、「あの盲人の目で、預言をして、イエスが国民のために
をあけたこの人でも、ラザロを死なせない」、 52 ただ国民のためだけではなく、また散
ようには、できなかつたのか」。 38 イエスは在している神の子らを一つに集めるためには
また激しく感動して、墓にはいられた。「死ぬことになつてはいる」と、言つたのであ
それは洞穴であつて、そこに石がはめてある。 53 彼らはこの日からイエスを殺そうと
つた。 39 イエスは言われた、「石を取りの相談した。 54 そのためイエスは、もはや公
けなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが然とユダヤ人の間を歩かないで、そこを出
言つた、「主よ、もう臭くなつておりますて、荒野に近い地方のエフライムという町
四日もたつていますから」。 40 イエスはに行かれ、そこに弟子たちと一緒に滞在し
彼女に言われた、「もし信じるなら神の榮ておられた。 55 さて、ユダヤ人の過越の祭
光を見るであろうと、あなたに言つたではが近づいたので、多くの人々は身をきよめ
ないか」。 41 人々は石を取りのけた。するるために、祭の前に、地方からエルサレム
と、イエスは目を天にむけて言われた、「へ上つた。 56 人々はイエスを捜し求め、宮
父よ、わたしの願いをお聞き下さったことの庭に立つて互に言った、「あなたがたは
を感謝します。 42 あなたがいつでもわたしはどう思うか。イエスはこの祭にこないのだ
の願いを聞きいれて下さることを、よく知りうか」。 57 祭司長たちとパリサイ人たち
っています。しかし、こう申しますのは、とは、イエスを捕えようとして、そのいど
そばに立つてゐる人々に、あなたがわたしを知つてゐる者があれば申し出よ、と
をつかわされたことを、信じさせるためでいう指令を出していた。

あります」。 43 こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。
44 すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエ
スは人々に言われた、「彼をほどいてやつて、帰らせなさい」。 45 マリヤのところに
きて、イエスのなさつたことを見た多くの

12 過越の祭の六日まえに、イエスはベタニアに行かれた。そこは、イエスが死
人の中からよみがえらせたラザロのいた所である。 2 イエスのためにそこで夕食の用
意がされ、マルタは給仕をしていた。イエスと一緒に食卓についていた者のうちに、
ラザロも加わっていた。 3 その時、マリヤ

は高価で純粹なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。**4**弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、**5**「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかつたのか」。**6**彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。**7**イエスは言われた、「この女がするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。**8**貧しい人々はいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。**9**大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせたラザロを見るためでもあった。**10**そこで祭司長たちは、ラザロも殺そうと相談した。**11**それは、ラザロのことでも多くのユダヤ人が彼らを離れて、イエスを信じるに至ったからである。**12**翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、**13**しゅろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、「ホサナ、主の御名によつてきたる者に祝福あれ、イスラエルの王にならん」と書いてあるとおりであった。**14**イエスは、ろばの子を見つけて、そに乗っておいでになる」と書いてあるとおりであった。**15**「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王がろばの子に乗つた」と言つた。弟子たちは初めにはこのことを悟らなかつたが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してもうしたのだと悟つた。**16**弟子たちは初めてこのことを聞いたとき、イエスと一緒にいた群衆が、そのあかしをした。**17**群衆がイエスを迎へに出たのは、イエスがこのようなしるしを行われたことを、聞いていたからである。**18**イエスは、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。**19**そこで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、「何を世をあげて彼のあとを追つて行つたではないか」。**20**祭で礼拝するため上ってきた人々のうちに、数人のギリシャ人がいた。**21**彼らはガリラヤのベツサイダ出であるピリポのところにきて、「君よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。**22**ピリポはアンデレのところに行ってそのことを話し、アンデレとピリポは、イエスのもとに行って伝えられた。**23**すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受ける時がきた。**24**よくよくあなたがたに言っておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。**25**自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保つて永遠の命に至るであろう。(aiōnios g166)**26**もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従つて来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたしに仕える者もまた、おるであろう。もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであろう。**27**今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至つたのです。**28**父よ、み名があがめられますように」。する」と天から声があった、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであろう」。**29**すると、そこに立つていた群衆がこれを聞いて、「雷がなつたのだ」と言い、ほかの人たちは、「御使が彼に話しかけたのだ」と言った。**30**イエスは答えて言われた、「この声があつたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためである。**31**今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は追い出されるであろう。**32**そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」。**33**イエスはこう言って、自分がどんな死に方で死のうと

していたかを、お示しになったのである。

34 すると群衆はイエスにむかって言った、「わたしたちは律法によって、キリストはいつまでも生きておいでのになるのだ、と聞いていました。それなのに、どうして人の子は上げられねばならないと、言われるのですか。その人の子とは、だれのことですか」。(aiōn g165) 35 そこでイエスは彼らに言われた、「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。36 光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。イエスはこれらのこと話をしてから、そこを立ち去って、彼らから身をお隠しになった。37 このように多くのしるしを彼らの前でなさったが、彼らはイエスを信じなかつた。38 それは、預言者イザヤの次の言葉が成就するためである、「主よ、わたしたちの説くところを、だれが信じたでしょうか。また、主のみ腕はだれに示されたでしょうか」。39 こういうわけで、彼らは信じることができなかつた。イザヤはまた、こうも言った、40 「神は彼らの目をくらまし、心をかたくくなになさつた。それは、彼らが目で見ず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである」。41 イザヤがこう言ったのは、イエスの栄光を見たからであつて、イエスのことを語つたのである。42 しかし、役人たちの中にも、イエスを信じた者が多かつたが、パリサイ人をはばかって、告白はしなかつた。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。43 彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。44 イエスは大声で言われた、「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのであり、45 また、わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。46 わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。47 たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守

らない人があつても、わたしはその人をさばかない。わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。48 わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、その人をさばくものがある。わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。49 わたしは自分から語ったのではなく、わたしをつかわされた父ご自身が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったのである。50 わたしは、この命令が永遠の命であることを知っている。それゆえに、わたしが語っていることは、わたしの父がわたしに仰せになったことを、そのまま語っているのである」。(aiōnios g166)

13 過越の祭の前に、イエスは、この世を去つて父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。

2 夕食のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、3 イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになつたこと、また、自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い、4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいをとつて腰に巻き、5 それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。6 こうして、シモン・ペテロの番になった。すると彼はイエスに、「主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか」と言った。7 イエスは彼に答えて言われた、「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう」。

8 ペテロはイエスに言った、「わたしの足を決して洗わないで下さい」。イエスは彼に答えられた、「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」。(aiōn g165) 9 シモン・ペテロはイエスに言った、「主よ、では、足だけではなく、どうぞ、手も頭も」。10 イエスは彼に言われた、「すでにからだを洗つた者は、足のほかは洗う必要がない。全身

がきれいなのだから。あなたがたはきれい 言った、「だれのことをおっしゃったのかなのだ。しかし、みんながそうなのではな 、知らせてくれ」。 25 その弟子はそのままい」。 11 イエスは自分を裏切る者を知って イエスの胸によりかかって、「主よ、だれおられた。それで、「みんながきれいなの のことですか」と尋ねると、 26 イエスは答ではない」と言われたのである。 12 こうし えられた、「わたしが一きれの食物をひたて彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふ して与える者が、それである」。そして、たたび席にもどって、彼らに言われた、「一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンわたしがあなたがたにしたことがわかるか の子イスカリオテのユダにお与えになった。 13 あなたがたはわたしを教師、また主と 。 27 この一きれの食物を受けるやいなや、呼んでいる。そう言うのは正しい。わたし サタンがユダにはいった。そこでイエスははそのとおりである。 14 しかし、主であり 彼に言われた、「しようとしていることを、また教師であるわたしが、あなたがたの 、今すぐするがよい」。 28 席を共にしてい足を洗ったからには、あなたがたもまた、 た者のうち、なぜユダにこう言われたのか互に足を洗い合うべきである。 15 わたしが 、わかっていた者はひとりもなかつた。 29 あなたがたにしたとおりに、あなたがたも ある人々は、ユダが金入れをあずかっていするように、わたしは手本を示したのだ。 たので、イエスが彼に、「祭のために必要 16 よくよくあなたがたに言っておく。僕は なものを買え」と言われたか、あるいは、その主人にまさるものではなく、つかわさ 貧しい者に何か施させようとされたのだとされた者はつかわした者にまさるものではな 思っていた。 30 ユダは一きれの食物を受けい。 17 もしこれらのことがわかっていて、 ると、すぐに出て行った。時は夜であったそれを行なうなら、あなたがたはさいわいで 。 31 さて、彼が出て行くと、イエスは言わある。 18 あなたがた全部の者について、こ れた、「今や人の子は栄光を受けた。神も う言っているのではない。わたしは自分が また彼によって栄光をお受けになった。 32 選んだ人たちを知っている。しかし、『わ 彼によって栄光をお受けになったのなら、たしのパンを食べている者が、わたしにむ 神ご自身も彼に栄光をお授けになるであろかってそのかかとをあげた』とある聖書は う。すぐにもお授けになるであろう。 33 子成就されなければならない。 19 そのことが たちよ、わたしはまだしばらく、あなたがまだ起らない今のうちに、あなたがたに言 たと一緒にいる。あなたがたはわたしを搜っておく。いよいよ事が起つたとき、わ すだろうが、すでにユダヤ人たちに言つたしがそれであることを、あなたがたが信じ とおり、今あなたがたにも言う、『あなたためである。 20 よくよくあなたがたに言 がたはわたしの行く所に来ることはできなっておく。わたしがつかわす者を受けいれ い』。 34 わたしは、新しいいましめをあなる者は、わたしを受けいれるのである。わ たがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしを受けいれる者は、わたしをつかわさ たしがあなたがたを愛したように、あなたれたかたを、受けいれるのである」。 21 イ がたも互に愛し合いなさい。 35 互に愛し合エスがこれらのことと言われた後、その心 うならば、それによって、あなたがたがわが騒ぎ、おごそかに言われた、「よくよく たしの弟子であることを、すべての者が認あなたがたに言っておく。あなたがたのう めるであろう」。 36 シモン・ペテロがイエ ちのひとりが、わたしを裏切ろうとしてい スに言った、「主よ、どこへおいでになるる」。 22 弟子たちはだれのことを言われた のですか」。イエスは答えられた、「あなたのか察しかねて、互に顔を見合わせた。 23 たはわたしの行くところに、今はついて来弟子たちのひとりで、イエスの愛しておら ることはできない。しかし、あとになってれた者が、み胸に近く席についていた。 24 から、ついて来ることになろう」。 37 ペテ そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして 口はイエスに言った、「主よ、なぜ、今あ

なたについて行くことができないのですか 言っておく。わたしを信じる者は、またわ
。あなたのためには、命も捨てます」。38 わたしのしているわざをするであろう。それ
イエスは答えられた、「わたしのために命 ばかりか、もっと大きいわざをするであろ
を捨てると言うのか。よくよくあなたに言 う。わたしが父のみもとに行くからである
ておく。鶏が鳴く前に、あなたはわたし 。13 わたしの名によって願うことは、なん
を三度知らないと言うであろう」。

14 「あなたがたは、心を騒がせないがよ
い。神を信じ、またわたしを信じなさい。
2わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかつたならば、わたしは
そう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。
3そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。
4わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。5トマスはイエスに言った、「
主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしよう」。
6イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。
7もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。
8ピリポはイエスに言った、「
主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。
9イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。
10わたしは父により、父がわたしにおられることをあなたは信じないので。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。
11わたしは父により、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。
12よくよくあなたがたに

言っておく。わたしを信じる者は、またわ
。わたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。
13わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。
14何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。
15もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。
16わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。(aiōn g165)
17それは真理の御靈である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。
18わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。
19もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである。
20その日には、わたしはわたしの父におり、あなたがたはわたしにおり、また、わたしがあなたがたにおることが、わかるであろう。
21わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう」。
22イスカリオテでない方のユダがイエスに言った、「主よ、あなたご自身をわたしたちにあらわそうとして、世にはあらわそうとされないのはなぜですか」。
23イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。
24わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉は

、わたしの言葉ではなく、わたしをつかわ つながっておれば、その人は実を豊かに結された父の言葉である。 25 これらのことは ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたと一緒にいた時、すでに語つ たがたは何一つできないからである。 6 人たことである。 26 しかし、助け主、すなわ がわたしにつながっていないならば、枝のち、父がわたしの名によってつかわされる ように外に投げてられて枯れる。人々は聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え それをかき集め、火に投げ入れて、焼いて、またわたしが話しておいたことを、こと しまうのである。 7 あなたがたがわたしにごとく思い起させるであろう。 27 わたしは つながっており、わたしの言葉があなたが平安をあなたがたに残して行く。わたしの たにとどまっているならば、なんでも望む平安をあなたがたに与える。わたしが与え ものを求めるがよい。そうすれば、与えらるのは、世が与えるようなものとは異なる れるであろう。 8 あなたがたが実を豊かに。あなたがたは心を騒がせるな、またおじ 結び、そしてわたしの弟子となるならば、けるな。 28 『わたしは去って行くが、また それによって、わたしの父は栄光をお受けあなたがたのところに帰って来る』と、わ になるであろう。 9 父がわたしを愛されたたしが言ったのを、あなたがたは聞いてい ように、わたしもあなたがたを愛したのである。もしわたしを愛しているなら、わたし ある。わたしの愛のうちにいなさい。 10 もが父のもとに行くのを喜んでくれるであろ しわたしのいましめを守るならば、あなたう。父がわたしそよ大きいかたであるから がたはわたしの愛のうちにおるのである。である。 29 今わたしは、そのことが起らな それはわたしがわたしの父のいましめを守り先にあなたがたに語った。それは、事が ったので、その愛のうちにおるのであると同じで起った時にあなたがたが信じるためにある。 11 わたしがこれらのこと話をしたの。 30 わたしはもはや、あなたがたに、多く は、わたしの喜びがあなたがたのうちにもを語るまい。この世の君が来るからである 宿るため、また、あなたがたの喜びが満ち。だが、彼はわたしに対して、なんの力も あふれるためである。 12 わたしのいましめがない。 31 しかし、わたしが父を愛している は、これである。わたしがあなたがたを愛ことを世が知るように、わたしは父がお命 したように、あなたがたも互に愛し合いなじになったとおりのことを行うのである。 13 人がその友のために自分の命を捨立て。さあ、ここから出かけて行こう。

15 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。 2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もつと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。 3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。 4 わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。 5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人と

たを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしをも知らないからである。 **4**わたしがたしを憎んだことを、知つておくがよい。 あなたがたにこれらのことと言つたのは、**19**もしあなたがたがこの世から出たもので彼らの時がきた場合、わたしが彼らについて言つたことを、思い起させるためであるのものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえつは、わたしがあなたがたと一緒にいたからて、わたしがあなたがたをこの世から選びである。 **5**けれども今わたしは、わたしを出したのである。だから、この世はあなたつかわされたかたのところに行こうとしてがたを憎むのである。 **20**わたしがあなたがいる。しかし、あなたがたのうち、だれもたに『僕はその主人にまさるものではない』『どこへ行くのか』と尋ねる者はない。 **6**』と言つたことを、おぼえていなさい。もかえつて、わたしがこれらのことと言つた人々がわたしを迫害したなら、あなたがために、あなたがたの心は憂いで満たされたをも迫害するであろう。また、もし彼らている。 **7**しかし、わたしはほんとうのこがわたしの言葉を守っていたなら、あなたとをあなたがたに言うが、わたしが去つてがたの言葉をも守るであろう。 **21**彼らはわ行くことは、あなたがたの益になるのだ。たしの名のゆえに、あなたがたに対してすわたしが去つて行かなければ、あなたがたべてそれらのことをするであろう。それはのところに助け主はこないであろう。もし、わたしをつかわされたかたを彼らが知ら行けば、それをあなたがたにつかわそう。ないからである。 **22**もしわたしがきて彼ら **8**それがきたら、罪と義とさばきとについてに語らなかつたならば、彼らは罪を犯さな、世の人の目を開くであろう。 **9**罪についてですんだであろう。しかし今となつてはてと言つたのは、彼らがわたしを信じない、彼らには、その罪について言いのがれるからである。 **10**義についてと言つたのは、道がない。 **23**わたしを憎む者は、わたしのわたしが父のみもとに行き、あなたがたは父をも憎む。 **24**もし、ほかのだれもがしな、もはやわたしを見なくなるからである。かつたようなわざを、わたしが彼らの間で **11**さばきについてと言つたのは、この世のしなかつたならば、彼らは罪を犯さないで君がさばかれるからである。 **12**わたしにはすんだであろう。しかし事実、彼らはわた、あなたがたに言うべきことがまだ多くあしとわたしの父とを見て、憎んだのであるるが、あなたがたは今はそれに堪えられない。 **25**それは、『彼らは理由なしにわたしをい。 **13**けれども真理の御靈が来る時には、憎んだ』と書いてある彼らの律法の言葉があなたがたをあらゆる真理に導いてくれる成就するためである。 **26**わたしが父のみもあろう。それは自分から語るのではなくとからあなたがたにつかわそうとしている、その聞くところを語り、きたるべき事を助け主、すなわち、父のみもとから来る真あなたがたに知らせるであろう。 **14**御靈は理の御靈が下る時、それはわたしについてわたしに栄光を得させるであろう。わたしあかしをするであろう。 **27**あなたがたも、のものを受けて、それをあなたがたに知ら初めからわたしと一緒にいたのであるからせるからである。 **15**父がお持ちになつてゐるものはみな、わたしのものである。御靈はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである。 **16**しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう」。 **17**そこで、弟子たちのうちのある者は互に言い合つた、「『しばらくす

16わたしがこれらのことと言つたのは、あなたがたがつまづくことのないためである。 **2**人々はあなたがたを会堂から追い出すであろう。更にあなたがたを殺す者がみな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであろう。 **3**彼らがそのようなことをするのは、父をもわ

れば、わたしを見なくなる。またしばらく もとからきたことを信じたためである。 28 すれば、わたしに会えるであろう』と言わ わたしは父から出てこの世にきたが、またれ、『わたしの父のところに行く』と言わ この世を去って、父のみもとに行くのであれたのは、いったい、どういうことなので る」。 29 弟子たちは言った、「今はあからあろう」。 18 彼らはまた言った、「『しばらく さまにお話しになって、少しも比喩ではおらくすれば』と言われるのは、どういうこ 話しになりません。 30 あなたはすべてのことか。わたしたちには、その言葉の意味が とをご存じであり、だれもあなたにお尋ねわからない」。 19 イエスは、彼らが尋ねた する必要のないことが、今わかりました。がっていることに気がついて、彼らに言わ このことによって、わたしたちはあなたがれた、「しばらくすればわたしを見なくな 神からこられたかたであると信じます」。る、またしばらくすればわたしに会えるで 31 イエスは答えられた、「あなたがたは今あろうと、わたしが言ったことで、互に論 信じているのか。 32 見よ、あなたがたは散じ合っているのか。 20 よくよくあなたがた らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたに言っておく。あなたがたは泣き悲しむが しをひとりだけ残す時が来るであろう。い、この世は喜ぶであろう。あなたがたは憂 や、すでにきている。しかし、わたしはひえているが、その憂いは喜びに変るであろ とりでいるのではない。父がわたしと一緒にう。 21 女が子を産む場合には、その時がき おられるのである。 33 これらのことがあたといでの、不安を感じる。しかし、子 なたがたに話したのは、わたしにあって平を産んでしまえば、もはやその苦しみをお 安を得るためにある。あなたがたは、このぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生 世ではなやみがある。しかし、勇気を出された、という喜びがあるためである。 22 こ なさい。わたしはすでに世に勝っている」のように、あなたがたにも今は不安がある。

。しかし、わたしは再びあなたがたと会う であろう。そして、あなたがたの心は喜び に満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。 23 その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言 っておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。 24 今まででは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれる であろう。 25 わたしはこれらのこととを比喩で話したが、もはや比喩では話さないで、あからさまに、父のことをあなたがたに話してきかせる時が来るであろう。 26 その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言うまい。 27 父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみ

17 これらのこととを語り終えると、イエス は天を見あげて言われた、「父よ、時 がきました。あなたの子があなたの栄光を あらわすように、子の栄光をあらわして下 さい。 2 あなたは、子に賜わったすべての 者に、永遠の命を授けさせるため、万民を 支配する権威を子にお与えになったのです から。(aiōnios g166) 3 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あな たがつかわされたイエス・キリストとを知 ることがあります。(aiōnios g166) 4 わたしは、 わたしにさせるためにお授けになったわざ をなし遂げて、地上であなたの栄光をあら わしました。 5 父よ、世が造られる前に、 わたしがみそばで持っていた栄光で、今み 前にわたしを輝かせて下さい。 6 わたしは、 あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼らは あなたのものでありますましたが、わたしに下さ いました。そして、彼らはあなたの言葉を 守りました。 7 いま彼らは、わたしに賜わ

つたものはすべて、あなたから出たもので ます。 21 父よ、それは、あなたがわたしのあることを知りました。 8 なぜなら、わた うちにおられ、わたしがあなたのうちにいしはあなたからいただいた言葉を彼らに与 るように、みんなの者が一つとなるためでえ、そして彼らはそれを受け、わたしがあ あります。すなわち、彼らをもわたしたちなたから出たものであることをほんとうに のうちにおらせるためであり、それによっ知り、また、あなたがわたしをつかわされ て、あなたがわたしをおつかわしになったたことを信じるに至ったからです。 9 わた ことを、世が信じるようになるためでありしは彼らのためにお願ひします。わたし がます。 22 わたしは、あなたからいただいたお願ひするのは、この世のためにではなく 荣光を彼らにも与えました。それは、わた 、あなたがわたしに賜わった者たちのため たちが一つであるように、彼らも一つにです。彼らはあなたのものなのです。 10 わ なるためであります。 23 わたしが彼らにおたしのものは皆あなたのもの、あなたのもの り、あなたがわたしにいますのは、彼らがのはわたしのものです。そして、わたしは 完全に一つとなるためであり、また、あな彼らによって栄光を受けました。 11 わたし たがわたしをつかわし、わたしを愛されたはもうこの世にはいなくなりますが、彼ら ように、彼らをお愛しになったことを、世はこの世に残っており、わたしはみもとに が知るためであります。 24 父よ、あなたが参ります。聖なる父よ、わたしに賜わった わたしに賜わった人々が、わたしのいる所御名によって彼らを守って下さい。それは と一緒にいるようにして下さい。天地が造わたしたちが一つであるように、彼らも一 られる前からわたしを愛して下さって、わつになるためであります。 12 わたしが彼ら たしに賜わった栄光を、彼らに見させて下と一緒にいた間は、あなたからいただいた さい。 25 正しい父よ、この世はあなたを知御名によって彼らを守り、また保護してま っていません。しかし、わたしはあなたをいりました。彼らのうち、だれも滅びず、 知り、また彼らも、あなたがわたしをおつただ滅びの子だけが滅びました。それは聖 かわしになったことを知っています。 26 そ書が成就するためでした。 13 今わたしはみ してわたしは彼らに御名を知らせました。もとに参ります。そして世にいる間にこれ またこれからも知らせましょう。それは、らのことを語るのは、わたしの喜びが彼ら あなたがわたしを愛して下さったその愛がのうちに満ちあふれるためであります。 14 わたしは彼らに御言を与えましたが、世は 彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります」。

彼らを憎みました。わたしは世のものでないよう、彼らも世のものではないからです。 15 わたしがお願ひするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。 16 わたしが世のものでないよう、彼らも世のものではありません。 17 真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。 18 あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。 19 また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。 20 わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願ひいたし

18 イエスはこれらのことと語り終えて、弟子たちと一緒にケデロンの谷の向こうへ行かれた。そこには園があつて、イエスは弟子たちと一緒にその中にはいられた。 2 イエスを裏切ったユダは、その所をよく知っていた。イエスと弟子たちとがたびたびそこで集まつたことがあるからである。 3 さてユダは、一隊の兵卒と祭司長やパリサイ人たちの送つた下役どもを引き連れ、たいまつやあかりや武器を持って、そこへやってきた。 4 しかしイエスは、自分の身上に起ろうとすることごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、「だれを捜しているのか」。 5 彼らは「ナザレのイエスを」と答えた。イエスは彼らに言

われた、「わたしが、それである」。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていつも教えていた。何事も隠れて語ったことをいた。**6** イエスが彼らに「わたしが、それとはない。**21**なぜ、わたしに尋ねるのか。である」と言われたとき、彼らはうしろにわたしが彼らに語ったことは、それを聞いて引きさがって地に倒れた。**7**そこでまた彼ら人々に尋ねるがよい。わたしの言つたことに、「だれを捜しているのか」とお尋ねとは、彼らが知っているのだから。**22** になると、彼らは「ナザレのイエスを」とイエスがこう言われると、そこに立っていた言つた。**8**イエスは答えられた、「わたし下役のひとりが、「大祭司にむかって、それがそれであると、言ったではないか。わたしのような答をするのか」と言って、平手でしを捜しているのなら、この人たちを去らイエスを打つ。**23**イエスは答えられた、「せてもらいたい」。**9**それは、「あなたがもしわたしが何か悪いことを言ったのをえて下さった人たちの中のひとりも、わら、その悪い理由を言いなさい。しかし、たしは失わなかつた」とイエスの言われた正しいことを言ったのなら、なぜわたしを言葉が、成就するためである。**10**シモン・ペテロは剣を持っていたが、それを抜いてスを縛つたまま大祭司カヤバのところへ送り、大祭司の僕に切りかかり、その右の耳をつた。**25**シモン・ペテロは、立って火にあかり落した。その僕の名はマルコスであつたつていた。すると人々が彼に言った、「た。**11**すると、イエスはペテロに言われたあなたも、あの人の弟子のひとりではない、「剣をさやに納めなさい。父がわたしにか」。彼はそれをうち消して、「いや、そ下さった杯は、飲むべきではないか」。**12**うではない」と言った。**26**大祭司の僕のひそれから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤとりで、ペテロに耳を切りおとされた人の人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげ親族の者が言った、「あなたが園である人て、**13**まずアンナスのところに引き連れて一緒にいるのを、わたしは見たではない行つた。彼はその年の大祭司カヤバのしゅか」。**27**ペテロはまたそれを打ち消した。うとであった。**14**カヤバは前に、ひとりのするとすぐに、鶏が鳴いた。**28**それから人が民のために死ぬのはよいことだと、ユダヤ人は、イエスをカヤバのところから官邸にダヤ人に助言した者であった。**15**シモン・ペテロはつれて行つた。時は夜明けであった。彼らペテロともうひとりの弟子とが、イエスには、けがれを受けないで過越の食事ができついて行つた。この弟子は大祭司の知り合るよう、官邸にはいらなかつた。**29**そこいつのであったので、イエスと一緒に大祭司ので、ピラトは彼らのところに出てきて言つ中庭にはいった。**16**しかし、ペテロは外でた、「あなたがたは、この人に対してどん戸口に立っていた。すると大祭司の知り合な訴えを起すのか」。**30**彼らはピラトに答いであるその弟子が、外に出て行って門番えて言つた、「もしこの人が悪事をはたらの女に話し、ペテロを内に入れてやつた。かなかつたなら、あなたに引き渡すよう¹⁷すると、この門番の女がペテロに言つたことはしなかつたでしょう」。**31**そこでピラトは彼らに言つた、「あなたがたは彼をありませんか」。ペテロは「いや、そうで引き取つて、自分たちの律法でさばくがよはない」と答えた。**18**僕や下役どもは、寒い。ユダヤ人は彼に言つた、「わたしの時であったので、炭火をおこし、そこにたちには、人を死刑にする権限がありませ立つてあたつてた。ペテロもまた彼らにん」。**32**これは、ご自身がどんな死にかた交じり、立つてあたつてた。大祭司はをしようとしているかを示すために言われイエスに、弟子たちのことやイエスの教のたイエスの言葉が、成就するためである。ことを尋ねた。**20**イエスは答えられた、「**33**さて、ピラトはまた官邸にはいり、イエスわたしはこの世に対して公然と語ってきたスを呼び出して言つた、「あなたは、ユダ

ヤ人の王であるか」。34 イエスは答えられ は彼に罪あるを見ず』 7 ユダヤ人こたふ『た、「あなたがそう言うのは、自分の考え 我らに律法あり、その律法によれば死に當からか。それともほかの人々が、わたしの るべき者なり、彼はおのれを神の子となせことをあなたにそう言ったのか」。35 ピラ り』 8 ピラトこの言をききて増々おそれ、トは答えた、「わたしはユダヤ人なのか。9 再び官邸に入りてイエスに言ふ『なんぢはあなたの同族や祭司長たちが、あなたをわ 何處よりぞ』 イエス答をなし給はず。10 ピ たしに引き渡したのだ。あなたは、いった ラト言ふ『われに語らぬか、我になんぢをい、何をしたのか』。36 イエスは答えられ 敕す權威あり、また十字架につくる權威あた、「わたしの国はこの世のものではない るを知らぬか』 11 イエス答へ給ふ『なんぢ。もしわたしの国がこの世のものであれば 上より賜はらずば、我に對して何の權威も、わたしに従っている者たちは、わたしを なし。この故に我をなんぢに付しし者の罪ユダヤ人に渡さないように戦ったであろう は更に大なり』 12 ここにおいてピラト、イ 。しかし事実、わたしの国はこの世のもの エスを赦さんことを力む。されどユダヤ人ではない』。37 そこでピラトはイエスに言 さけびて言ふ『なんぢ若しこの人を赦さばつた、「それでは、あなたは王なのだな」 、カイザルの忠臣にあらず、凡そおのれを。イエスは答えられた、「あなたの言うと 王となす者はカイザルに叛くなり』 13 ピラ おり、わたしは王である。わたしは真理に トこれららの言をききて、イエスを外にひきついてあかしをするために生れ、また、そ ゆき、敷石（ヘブル語にてガバタ）といふのためにこの世にきたのである。だれでも 處にて審判の座につく。14 この日は過越の真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける 準備日にて、時は第六時ごろなりき。ピラ 」。38 ピラトはイエスに言った、「真理と ト、ユダヤ人にいふ『視よ、なんぢらの王は何か』。こう言って、彼はまたユダヤ人 なり』 15 かれら叫びていふ『除け、除け、の所に出て行き、彼らに言った、「わたし 十字架につけよ』 ピラト言ふ『われ汝らのには、この人になんの罪も見いだせない。王を十字架につくべんや』 祭司長ら答ふ 39 過越の時には、わたしがあなたがたのた 『カイザルの他われらに王なし』 16 ここにめに、ひとりの人を許してやるのが、あな ピラト、イエスを十字架に釘くるために彼たがたのしきたりになっている。ついでに らに付せり。彼らイエスを受取りたれば、あなたがたは、このユダヤ人の王を許し 17 イエス己に十字架を負ひて、髑髏（ヘブル語にてゴルゴダ）といふ處に出でゆき給てもらいたいのか』。40 すると彼らは、ま た叫んで「その人ではなく、バラバを」と ふ。 18 其處にて彼らイエスを十字架につく言つた。このバラバは強盜であった。

19 ここにピラト、イエスをとりて鞭うつ。2 兵卒ども茨にて冠冕をあみ、その首にかむらせ、紫色の上衣をきせ、3 御許に進みて言ふ『ユダヤ人の王やすかれ』而して手掌にて打てり。4 ピラト再び出でて人々にいふ『視よ、この人を汝らに引出す、これは何の罪あるをも我が見ぬことを汝らの知らん爲なり』 5 ここにイエス茨の冠冕をかむり、紫色の上衣をきて出で給へば、ピラト言ふ『視よ、この人なり』 6 祭司長・下役どもイエスを見て叫びいふ『十字架につけよ、十字架につけよ』 ピラト言ふ『なんぢら自らとりて十字架につけよ、我

は彼に罪あるを見ず』 7 ユダヤ人こたふ『

我らに律法あり、その律法によれば死に當からか。それともほかの人々が、わたしの るべき者なり、彼はおのれを神の子となせことをあなたにそう言ったのか』。35 ピラ り』 8 ピラトこの言をききて増々おそれ、トは答えた、「わたしはユダヤ人なのか。9 再び官邸に入りてイエスに言ふ『なんぢはあなたの同族や祭司長たちが、あなたをわ 何處よりぞ』 イエス答をなし給はず。10 ピ たしに引き渡したのだ。あなたは、いった ラト言ふ『われに語らぬか、我になんぢをい、何をしたのか』。36 イエスは答えられ 故に我をなんぢに付しし者の罪ユダヤ人に渡さないように戦ったであろう は更に大なり』 12 ここにおいてピラト、イ 。しかし事実、わたしの国はこの世のもの エスを赦さんことを力む。されどユダヤ人ではない』。37 そこでピラトはイエスに言 さけびて言ふ『なんぢ若しこの人を赦さばつた、「それでは、あなたは王なのだな」 、カイザルの忠臣にあらず、凡そおのれを。イエスは答えられた、「あなたの言うと 王となす者はカイザルに叛くなり』 13 ピラ おり、わたしは王である。わたしは真理に トこれららの言をききて、イエスを外にひきついてあかしをするために生れ、また、そ ゆき、敷石（ヘブル語にてガバタ）といふためにこの世にきたのである。だれでも 處にて審判の座につく。14 この日は過越の真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける 準備日にて、時は第六時ごろなりき。ピラ 」。38 ピラトはイエスに言った、「真理と ト、ユダヤ人にいふ『視よ、なんぢらの王は何か』。こう言って、彼はまたユダヤ人 なり』 15 かれら叫びていふ『除け、除け、の所に出て行き、彼らに言った、「わたし 十字架につけよ』 ピラト言ふ『われ汝らのには、この人になんの罪も見いだせない。王を十字架につくべんや』 祭司長ら答ふ 39 過越の時には、わたしがあなたがたのた 『カイザルの他われらに王なし』 16 ここにめに、ひとりの人を許してやるのが、あな ピラト、イエスを十字架に釘くるために彼たがたのしきたりになっている。ついでに らに付せり。彼らイエスを受取りたれば、あなたがたは、このユダヤ人の王を許し 17 イエス己に十字架を負ひて、髑髏（ヘブル語にてゴルゴダ）といふ處に出でゆき給てもらいたいのか』。40 すると彼らは、ま た叫んで「その人ではなく、バラバを」と ふ。 18 其處にて彼らイエスを十字架につく言つた。このバラバは強盜であった。

19 ここにピラト、イエスをとりて鞭うつ。2 兵卒ども茨にて冠冕をあみ、その首にかむらせ、紫色の上衣をきせ、3 御許に進みて言ふ『ユダヤ人の王やすかれ』而して手掌にて打てり。4 ピラト再び出でて人々にいふ『視よ、この人を汝らに引出す、これは何の罪あるをも我が見ぬことを汝らの知らん爲なり』 5 ここにイエス茨の冠冕をかむり、紫色の上衣をきて出で給へば、ピラト言ふ『視よ、この人なり』 6 祭司長・下役どもイエスを見て叫びいふ『十字架につけよ、十字架につけよ』 ピラト言ふ『なんぢら自らとりて十字架につけよ、我

が、下衣は縫目なく、上より惣て織りたる物なれば、**24** 兵卒ども互にいふ『これを裂くな、誰がうるか闇にすべし』これは聖書の成就せん爲なり。曰く『かれら互にわが衣をわけ、わが衣を闇にせり』兵卒ども斯くなしたり。**25**さてイエスの十字架の傍らには、その母と母の姉妹と、クロパの妻マリヤとマグダラのマリヤと立てり。**26** イエスその母とその愛する弟子との近く立てるを見て、母に言ひ給ふ『をんなよ、視よ、なんぢの子なり』**27** また弟子に言ひたまふ『視よ、なんぢの母なり』この時より、その弟子かれを己が家に接けたり。**28** この後イエス萬の事の終りたるを知りて、一一聖書の全うせられん爲に——『われ渴く』と言ひ給ふ。**29** ここに酸き葡萄酒の満ちたる器あり、その葡萄酒のふくみたる海綿をヒソップに著けてイエスの口に差附く。**30** イエスその葡萄酒をうけて後いひ給ふ『事畢りぬ』遂に首をたれて靈をわたし給ふ。**31** この日は準備日なれば、ユダヤ人、安息日に屍體を十字架のうへに留めおかじとて（殊にこの度の安息日は大なる日なるにより）ピラトに、彼らの脛ををりて屍體を取除かんことを請ふ。**32** ここに兵卒ども來りて、イエスとともに十字架に釘けられたる第一の者と他のものとの脛を折り、**33** 而してイエスに來りしに、はや死に給ふを見て、その脛を折らず。**34** 然るに一人の兵卒、鎗にてその脅をつきたれば、直ちに血と水と流れいづ。**35** 之を見しもの證をなす、其の證は真なり、彼はその言ふことの眞なるを知る、これ汝等にも信ぜしめん爲なり。**36** 此等のことの成りたるは『その骨くだかれず』とある聖句の成就せん爲なり。**37** また他に『かれら己が刺したる者を見るべし』と云へる聖句あり。**38** この後、アリマタヤのヨセフとて、ユダヤ人を懼れ密にイエスの弟子たりし者、イエスの屍體を引取らんことをピラトに請ひたれば、ピラト許せり、乃ち往きてその屍體を引取る。**39** また曾て夜御許に來りしニコデモも、沒薬・沈香の混和物を百斤ばかり携へて来る。**40** ここに彼らイエスの屍體をとり、ユダヤ人の葬りの習慣にしたがひて、香料とともに布にて巻けり。**41** イエスの十字架につけられ給ひし處に園あり、園の中にいまだ人を葬りしことなき新しき墓あり。**42** ユダヤ人の準備日なれば、この墓の近きままに其處にイエスを納めたり。

20さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。**2** そこで走って、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行って、彼らに言った、「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」。**3** そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて、墓へむかって行つた。**4** ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走って先に墓に着き、**5** そして身をかがめてみると、亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、中へははいらなかつた。**6** シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいつた。彼は亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、**7** イエスの頭に巻いてあつた布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあつた。**8** すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいってきて、これを見て信じた。**9** しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟つていなかつた。**10** それから、ふたりの弟子たちは自分の家に帰つて行つた。**11** しかし、マリヤは墓の外に立つて泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、**12** 白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとりは頭の方に、ひとりは足の方に、すわつてゐるのを見た。**13** すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いでいるのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。**14** そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立つておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかつた

。 15 イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあなたが、あのかたを移したのでしたら、どこへ置いたのか、どうぞおっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。 16 イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返ってイエスにむかってヘブル語で「ラボニ」と言つた。それは、先生という意味である。 17 イエスは彼女に言わされた、「わたしにみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であつて、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」。 18 マグダラのマリヤは弟子たちのところに行って、自分が主に会ったこと、またイエスがこれることを自分に仰せになったことを、報告した。 19 その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていると、イエスがはいってきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。 20 そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。 21 イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。 22 そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。 23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。 24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれているトマスは、イエスがこられたとき、彼らと一緒にいなかつた。 25 ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。 26 八日ののち、イエスの弟子たちはまた家の内におり、トマスも一緒にいる。戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、中に立って「安かれ」と言われた。 27 それからトマスに言われた、「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。 28 トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。 29 イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見なきわってはいけない。わたしは、まだ父のいでの信する者は、さいわいである」。 30 イエスは、この書に書かれていないしをたしの兄弟たちの前で行われた。 31 しかし、これらのこと書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

21 その後、イエスはテベリヤの海べで、ご自身をまた弟子たちにあらわされた。そのあらわされた次第は、こうである。 2 シモン・ペテロが、デドモと呼ばれているトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子らや、ほかのふたりの弟子たちと一緒にいた時のことである。 3 シモン・ペテロは彼らに「わたしは漁に行くのだ」と言うと、彼らは「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って舟に乗った。しかし、その夜はなんの獲物もなかつた。 4 夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。しかし弟子たちはそれがイエスだとは知らなかつた。 5 イエスは彼らに言われた、「子たちよ、何か食べるものがあるか」。彼らは「ありません」と答えた。 6 すると、イエスは彼らに言われた、「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう」。彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかつた。 7 イエスの愛しておられた弟子が、ペテロに「あれは主だ」と言った。シモン・ペテロは主であると聞いて、裸になっていたため、上着をまとつて海にとびこんだ。 8 しかし

、ほかの弟子たちは舟に乗ったまま、魚の になろう。そして、ほかの人があなたに帶はいっている網を引きながら帰って行った を結びつけ、行きたくない所へ連れて行く。陸からはあまり遠くない五十間ほどの所 であろう」。**19** これは、ペテロがどんな死にいたからである。**9** 彼らが陸に上って見 に方で、神の栄光をあらわすかを示すためると、炭火がおこしてあって、その上に魚 に、お話しになったのである。こう話してがのせてあり、またそこにパンがあった。から、「わたしに従ってきなさい」と言わ**10** イエスは彼らに言われた、「今とった魚 れた。**20** ペテロはふり返ると、イエスの愛を少し持ってきなさい」。**11** シモン・ペテ しておられた弟子がついて来るのを見た。ロが行って、網を陸へ引き上げると、百五 この弟子は、あの夕食のときイエスの胸近十三匹の大きな魚でいっぱいになつてい くに寄りかかって、「主よ、あなたを裏切た。そんなに多かったが、網はさけないで る者は、だれなのですか」と尋ねた人であいた。**12** イエスは彼らに言われた、「さ ある。**21** ペテロはこの弟子を見て、イエスに、朝の食事をしなさい」。弟子たちは、主 言つた、「主よ、この人はどうなのですかであることがわかっていたので、だれも「」。**22** イエスは彼に言われた、「たとい、あなたはどなたですか」と進んで尋ねる者 わたしの来る時まで彼が生き残っているこがなかつた。**13** イエスはそこにきて、パン とを、わたしが望んだとしても、あなたにをとり彼らに与え、また魚も同じようにさ はなんの係わりがあるか。あなたは、わたれた。**14** イエスが死人の中からよみがえつ しに従ってきなさい」。**23** こういうわけでしたのち、弟子たちにあらわれたのは、これ 、この弟子は死ぬことがないといううわさで既に三度目である。**15** 彼らが食事をすま が、兄弟たちの間にひろまつた。しかし、せると、イエスはシモン・ペテロに言われ イエスは彼が死ぬことはないと言われたのた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの ではなく、ただ「たとい、わたしの来る時人たちが愛する以上に、わたしを愛するか まで彼が生き残っていることを、わたしが」。ペテロは言った、「主よ、そうです。望んだとしても、あなたにはなんの係わりわたしがあなたを愛することは、あなたが があるか」と言われただけである。**24** これご存じです」。イエスは彼に「わたしの小 らの事についてあかしをし、またこれらの羊を養いなさい」と言われた。**16** またもう 事を書いたのは、この弟子である。そして一度彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ 彼のあかしが真実であることを、わたした、わたしを愛するか」。彼はイエスに言つ ちは知っている。**25** イエスのなさつしたこと、「主よ、そうです。わたしがあなたを は、このほかにまだ数多くある。もしいち愛することは、あなたがご存じです」。い いち書きつけるならば、世界もその書かれエスは彼に言われた、「わたしの羊を飼い た文書を收めきれないであろうと思う。なさい」。**17** イエスは三度目に言われた、

「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」。ペテロは「わたしを愛するか」とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい」。**18** よくよくあなたに言っておく。あなたが若かった時には、自分で帶をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとつてからは、自分の手をのばすこと



また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って來るのを見た。また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、
人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、
ヨハネの黙示録 21:2-3

ヨハネの黙示録

19

この後、わたしは天の大群衆が大声で唱えるような声を聞いた、「ハレルヤ 唱えるような声を聞いた、「ハレルヤ あり、² そのさばきは、真実で正しい。神 命は「神の言」と呼ばれた。¹³ 彼は血染めの衣をまとい、その と力とは、われらの神のもので、神の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を 着て、白い馬に乗り、彼に従った。¹⁴ そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を 、救と栄光と力とは、われらの神のもので、神の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を 着て、白い馬に乗り、彼に従った。¹⁵ その あり、² そのさばきは、真実で正しい。神 口からは、諸国民を打つために、銳いつる 姿が出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸の僕たちの血の報復を彼女になさったから 国民を治め、また、全能者なる神の激しい 怒りの酒ぶねを踏む。¹⁶ その着物にも、そ である」。³ 再び声があつて、「ハレルヤ 、彼女が焼かれる火の煙は、世々限りなく 立ちのぼる」と言った。^(aiōn g165)⁴ すると、二十四人の長老と四つの生き物とがひれ伏し、御座にいます神を拝して言った、「アーメン、ハレルヤ」。⁵ その時、御座から 声が出て言った、「すべての神の僕たちよ、神をおそれる者たちよ。小さき者も大いなる者も、共に、われらの神をさんびせよ」。⁶ わたしはまた、大群衆の声、多くの水の音、また激しい雷鳴のようなものを聞いた。それはこう言った、「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。⁷ わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。⁸ 彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」。⁹ それから、御使はわたしに言った、「書きしらせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわたしに言った、「これらは、神の真実の言葉である」。¹⁰ そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスのあかしごとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の靈である」。¹¹ またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、「忠実で真実な者」と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。¹² その目は燃える炎であり、その頭には多くの冠があった。また、彼以外

にはだれも知らない名がその身にしるされていた。¹³ 彼は血染めの衣をまとい、その名は「神の言」と呼ばれた。¹⁴ そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に従った。¹⁵ その口からは、諸国民を打つために、銳いつる姿が出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸の国民を治め、また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。¹⁶ その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた。¹⁷ また見ていると、ひとりの御使が太陽の中に立っていた。彼は中空を飛んでいるすべての鳥にむかって大声で叫んだ、「さあ、神の大宴会に集まつてこい。¹⁸ そして、王たちの肉、将军の肉、勇者の肉、馬の肉、馬に乗っている者の肉、また、すべての自由人と奴隸との肉、小さき者と大いなる者との肉をくらえまつてこい」。¹⁹ なお見ていると、獣と地の王たちと彼らの軍勢とが集まり、馬に乗っているかたの軍勢とが対して、戦いをいどんだ。²⁰ しかし、獣は捕えられ、また、この獣の前でしるしを行って、獣の刻印を受けた者とその像を拝む者とを惑わしたにせ預言者も、獣と共に捕えられた。そして、この両者とも、生きながら、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。^(Limnē Pyr g3041 g4442)²¹ それ以外の者たちは、馬に乗っておられるかたの口から出るつるぎで切り殺され、その肉を、すべての鳥が飽きるまで食べた。

20

またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から降りてきた。^(Abyssos g12)² 彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、³ そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらくの間だけ解放されることになっていた。^(Abyssos g12)⁴ また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた

。また、イエスのあかしをし神の言を伝えたために首を切られた人々の靈がそこにおり、また、獸をもその像をも拝まず、その刻印を額や手に受けることをしなかつた人々がいた。彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間、支配した。⁵（それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。）これが第一の復活である。

Limnē Pyr g3041 g4442 6 この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人々に対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。

Limnē Pyr g3041 g4442 7 年の期間が終ると、サタンはその獄から解放される。

Limnē Pyr g3041 g4442 8 そして、出て行き、地の四方にいる諸国民、すなわちゴグ、マゴグを感じ、彼らを戦いのために召集する。その数は、海の砂のように多い。

Limnē Pyr g3041 g4442 9 彼らは地上にせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである。

(aiōn g165, Limnē Pyr g3041 g4442) 11 また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあつた。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなつた。

Limnē Pyr g3041 g4442 12 また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがつて、さばかれた。

Limnē Pyr g3041 g4442 13 海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、おののそのしわざに応じて、さばきを受けた。

(Hadēs g86, Limnē Pyr g3041 g4442) 14 それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。

21 わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。² また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾つた花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下つて来るのを見た。³ また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いたならなかつた。）、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、⁴ 人の目から涙を全くぬぐいとて下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものとが、すでに過ぎ去つたからである」。⁵ すと、御座にいますかたが言われた、「見放されよ、わたしはすべてのものを新たにする」。

Limnē Pyr g3041 g4442 6 そして、わたしに仰せられた、「事はの広い所に上ってきて、聖徒たちの陣営とすでに成了った。わたしは、アルバでありオ愛されていた都とを包囲した。すると、天メガである。初めてあり終りである。かわから火が下ってきて、彼らを焼き尽した。

Limnē Pyr g3041 g4442 7 そして、わたしに仰せられた、「事はの広い所に上ってきて、聖徒たちの陣営とすでに成了った。わたしは、アルバでありオ愛されていた都とを包囲した。すると、天メガである。初めてあり終りである。かわから火が下ってきて、彼らを焼き尽した。

Limnē Pyr g3041 g4442 8 しかし、おくびような者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受けべき報いである。これが第二の死である」。**(Limnē Pyr g3041 g4442)** 9 最後の七つの災害が満ちている七つの鉢を持っていた七人の御使のひとりがきて、わたしに語つて言った、「さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう」。¹⁰ この御使は、わたしを御靈に感じたまま、大きな高い山に連れて行き、聖都エルサレムが、神の栄光のうちに、神のみもとを出て天から下つて来るのを見させてくれた。¹¹ その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであった。

Limnē Pyr g3041 g4442 12 それには大きな、高い城壁がついて、十二の門があり、それらの門には、十二の御使がおり、イスラエルの子らの十二部族の名が、それに書いてあつた。

Limnē Pyr g3041 g4442 13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つ

の門、西に三つの門があった。 14 また都の城壁には十二の土台があり、それには小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。 15 、 4 御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額にわたしに語っていた者は、都とその門と城壁とを測るために、金の測りざおを持っていた。 16 都は方形であって、その長さと幅とは同じである。彼がその測りざおで都を測ると、一万二千丁であった。長さと幅と高さとは、いずれも同じである。 17 また城壁を測ると、百四十四キュビトであった。これは人間の、すなわち、御使の尺度によるのである。 18 城壁は碧玉で築かれ、都は宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイヤ、第三はめのう、第四は緑玉、 20 第五は縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。 21 十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおったガラスのような純金で造られた。 22 わたしは、この都の中には聖所を見なかつた。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。 23 都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光榮をそこに携えて来る。 25 都の門は、終日、閉ざされることはない。そこには夜がないからである。 26 人々は、諸国民の光榮をいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、 2 都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。 3 のろわるべきものは

、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝するのである。彼らの額には御名がしるされている。 5 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世界限りなく支配する。(aiōn g165) 6 彼はまた、わたしに言った、「これらの言葉は信ずべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をついた。 7 見よ、わたしは、すきとおったガラスのような純金で造られたのである。 8 これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。わたしが見聞きした時、それらのことを示して、すぐには来る。この書の預言の言葉を守る者である。 9 彼は言つた、「そのようなことはいけない。わたしは、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である」とは、さいわいである」。 10 またわたしたちの言葉を守る者たちは、さらに汚れたことを行い、義なる者ではない。時が近づいているからである。 11 不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なる者である。 12 「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。 13 わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めてありとほまれとをそこに携えて来る。 27 しかし終りである。 14 いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、されども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行ふ者はみな、外に出されている。 16 わたしイエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことあなたがたにあかしした。わたしは、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」。 17 御靈も花嫁もと共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も

22 御使はまた、水晶のように輝いているいのちの木の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、 2 都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。 3 のろわるべきものは

「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けれるがよい。

18この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。**19**

また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。**20**これらのことがあかしするかたが仰せになる、「しかし、わたしはすぐに来る」。アーメン、主イエスよ、きたりませ。**21**主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。

66 詩

日本語 at AionianBible.org

The Bible is a library of 66 books in the Protestant Canon written by 40 different men over a span of 1,500 years from 1435 BC to 65 AD with one consistent message. From the first page through the last, Jesus. Genesis promised our deliverer is coming, Jesus. Moses said our better prophet is coming, Jesus. Isaiah prophesied our Messiah will be a suffering servant, Jesus. John announced our Anointed One is here, Jesus. Jesus himself testified he is our Lord God, Yahweh. The gospels agree our conqueror of death has risen, Jesus. The Apostles witnessed our victor ascend to his throne in Heaven, Jesus. And Revelation promises Jesus' return for our final judgment. Are you ready? Read the Bible cover to cover at AionianBible.org and answer these questions. How did I get here? Why am I here? How do I determine right or wrong? How can I escape condemnation? What is my destiny? Begin with primer verses below.

創世記 9:8 神はノアおよび共にいる子らに言われた、 9:9 「わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。 9:10 またあなたがたと共にいるすべての生き物、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獸、すなわち、すべて箱舟から出たものは、地のすべての獸にいたるまで、わたしはそれと契約を立てよう。 9:11 わたしがあなたがたと立てるこの契約により、すべて肉なる者は、もはや洪水によって滅ぼされることはなく、また地を滅ぼす洪水は、再び起らないであろう」。 9:12 さらに神は言われた、「これはわたしと、あなたがた及びあなたがたと共にいるすべての生き物との間に代々かぎりなく、わたしが立てる契約のしるしである。 9:13 すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。

出エジプト記 14:13 モーセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。 14:14 主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙ていなさい」。

レビ記 20:26 あなたがたはわたしに対して聖なる者でなければならない。主なるわたしは聖なる者で、あなたがたをわたしのものにしようと、他の民から区別したからである。

民数記 6:24 「願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。 6:25 願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。 6:26 願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜わるように」』。

申命記 18:18 わたしは彼らの同胞のうちから、おまえのようなひとりの預言者を彼らのために起して、わたしの言葉をその口に授けよう。彼はわたしが命じることを、ことごとく彼らに告げるであろう。 18:19 彼がわたしの名によって、わたしの言葉を語るのに、もしこれに聞き従わない者があるならば、わたしはそれを罰するであろう。

ヨシュア記 1:7 ただ強く、また雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためにある。 1:8 この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は榮え、あなたは勝利を得るであろう。 1:9 わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなた

がどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」。

士師記 2:7 民はヨシュアの在世中も、またヨシュアのあとに生き残った長老たち、すなわち主がかつてイスラエルのために行われたすべての大いなるわざを見た人々の在世中も主に仕えた。

ルツ記 1:16 しかしルツは言つた、「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。 1:17 あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください」。

サムエル記Ⅰ 16:7 しかし主はサムエルに言われた、「顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る」。

サムエル記Ⅱ 7:22 主なる神よ、あなたは偉大です。それは、われわれがすべて耳に聞いたところによれば、あなたのような者はなく、またあなたのほかに神はないからです。

列王記Ⅰ 2:3 あなたの神、主のさとしを守り、その道に歩み、その定めと戒めと、おきてとあかしとを、モーセの律法にしるされているとおりに守らなければならない。そうすれば、あなたがするすべての事と、あなたの向かうすべての所で、あなたは栄えるであろう。

列王記Ⅱ 22:19 あなたは、わたしがこの所と、ここに住んでいる民にむかって、これは荒れ地となり、のろいとなるであろうと言うのを聞いた時、心に悔い、主の前にへりくだり、衣を裂いてわたしの前に泣いたゆえ、わたしもまたあなたの言うことを聞いたのであると主は言われる。

歴代誌Ⅰ 29:17 わが神よ、あなたは心をためし、また正直を喜ばれることを、わたしは知っています。わたしは正しい心で、このすべての物を喜んでささげました。今わたしはまた、ここにおるあなたの民が喜んで、みずから進んであなたにささげ物をするのを見ました。

歴代誌Ⅱ 7:14 わたしの名をもってとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その罪をゆるし、その地をいやす。

エズラ記 7:10 エズラは心をこめて主の律法を調べ、これを行い、かつイスラエルのうちに定めとおきてとを教えた。

ネヘミヤ記 6:3 それでわたしは彼らに使者をつかわして言わせた、「わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。どうしてこの工事をさしあいて、あなたがたの所へ下って行き、その間、工事をやめることができようか」。

エステル記 4:14 あなたがもし、このような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救がユダヤ人のために起るでしょう。しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましよう」。

ヨブ記 19:25 わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

詩篇 23:1 ダビデの歌 主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。23:2 主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。23:3 主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。23:4 たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。23:5 あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。23:6 わたしの生きているかぎりは必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。

箴言 知恵の泉 3:5 心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。3:6 すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

伝道者の書 3:10 わたしは神が人の子らに与えて、ほねおらせられる仕事を見た。3:11 神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。

雅歌 2:4 彼はわたしを酒宴の家に連れて行った。わたしの上にひるがえる彼の旗は愛であった。

イザヤ書 9:6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。9:7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

エレミヤ書 29:11 主は言われる、わたしがあなたがたに対している計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。

哀歌 3:21 しかし、わたしはこの事を心に思い起す。それゆえ、わたしは望みをいだく。3:22 主のいくくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。3:23 これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。

エゼキエル書 36:26 わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい靈をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。36:27 わたしはまたわが靈をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。

ダニエル書 3:16 シャデラク、メシャクおよびアベデネゴは王に答えて言った、「ネブカデネザルよ、この事について、お答えする必要はありません。3:17 もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。3:18 たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません」。

ホセア書 6:6 わたしはいくくしみを喜び、犠牲を喜ばない。燔祭よりもむしろ神を知ることを喜ぶ。

ヨエル書 2:28 その後わたしはわが靈をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。
2:29 その日わたしはまたわが靈をしもべ、はしたために注ぐ。 2:30 わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。 2:31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変る。 2:32 すべて主の名を呼ぶ者は救われる。それは主が言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、主のお召しになる者がある。

アモス書 5:24 公道を水のように、正義をつきない川のように流れさせよ。

オバデヤ書 1:15 主の日が万国の民に臨むのは近い。あなたがしたようにあなたもされる。あなたの報いはあなたのこうべに帰する。

ヨナ書 2:6 わたしは地に下り、地の貫の木はいつもわたしの上にあった。しかしあが神、主よ、あなたはわが命を穴から救いあげられた。 2:7 わが魂がわたしのうちに弱っているとき、わたしは主をおぼえ、わたしの祈はあなたに至り、あなたの聖なる宮に達した。 2:8 むなしい偶像に心を寄せる者は、そのまことの忠節を捨てて。 2:9 しかしあたしは感謝の声をもって、あなたに犠牲をささげ、わたしの誓いをはたす。救は主にある」。

ミカ書 6:8 人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだつてあなたの神と共に歩むことではないか。

ナホム書 1:2 主はねたみ、かつあだを報いる神、主はあだを報いる者、また憤る者、主はおのがあだに報復し、おのが敵に対して憤りをいだく。 1:3 主は怒ることおそらく、力強き者、主は罰すべき者を決してゆるされない者、主の道はつむじ風と大風の中にあり、雲はその足のちりである。

ハパクク書 3:17 いちじくの木は花咲かず、ぶどうの木は実らず、オリブの木の産はむなしくなり、田畠は食物を生ぜず、おりには羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。 3:18 しかし、わたしは主によって樂しみ、わが救の神によって喜ぶ。 3:19 主なる神はわたしの力であって、わたしの足を雌じかの足のようにし、わたしに高い所を歩ませられる。これを琴に合わせ、聖歌隊の指揮者によって歌わせる。

ゼパニヤ書 3:17 あなたの神、主はあなたのうちにいまし、勇士であって、勝利を与える。彼はあなたのためには喜び樂しみ、その愛によってあなたを新にし、祭の日のようにあなたのためには喜び呼ばわられる」。

ハガイ書 1:4 「主の家はこのように荒れはててているのに、あなたがたは、みずから板で張った家に住んでいる時であろうか。 1:5 それで今、万軍の主はこう言われる、あなたがたは自分のなすべきことをよく考えるがよい。 1:6 あなたがたは多くまいても、取入れは少なく、食べても、飽きることはない。飲んでも、満たされない。着ても、暖まらない。賃銀を得ても、これを破れた袋に入れているようなものである。 1:7 万軍の主はこう言われる、あなたがたは、自分のなすべきことを考えるがよい。

ゼカリヤ書 12:10 わたしはダビデの家およびエルサレムの住民に、恵みと祈の靈とを注ぐ。彼らはその刺した者を見る時、ひとり子のために嘆くように彼のために嘆き、ういごのために悲しむように、彼のためにいたく悲しむ。

マラキ書 4:2 しかしあが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる

。4:3 また、あなたがたは悪人を踏みつけ、わたしが事を行う日に、彼らはあなたがたの足の裏の下にあって、灰のようになると、万軍の主は言われる。

マタイの福音書 28:18 イエス進みきたり、彼らに語りて言ひたまふ『我は天にても地にても一切の權を與へられたり。28:19 されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、28:20 わが汝らに命ぜし凡ての事を守るべきを教へよ。視よ、我は世の終まで常に汝らと偕に在るなり』 (aiōn g165)

マルコの福音書 1:14 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、1:15 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。1:16 さて、イエスはガリラヤの海べを歩いて行かれ、シモンとシモンの兄弟アンデレとが、海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。1:17 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。1:18 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。

ルカの福音書 4:18 「主の御靈がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、

ヨハネの福音書 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためにある。(aiōnios g166)
3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

使徒の働き 1:7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。1:8 ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

ローマ人への手紙 11:32 すなわち、神はすべての人をあわれむために、すべての人を不従順のなかに閉じ込めたのである。(eleēsē g165) 11:33 ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい。11:34 「だれが、主の心を知っていたか。だれが、主の計画にあづかったか。11:35 また、だれが、まず主に与えて、その報いを受けるであろうか」。11:36 万物は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。栄光がとこしえに神にあるように、アーメン。 (aiōn g165)

コリント人への手紙第一 6:9 それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。まちがってはいけない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、6:10 貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は、いずれも神の国をつぐことはないのである。6:11 あなたがたの中には、以前はそんな人もいた。しかし、あなたがたは、主イエス・キリストの名によって、またわたしたちの神の靈によって、洗われ、きよめられ、義とされたのである。

コリント人への手紙第二 5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。5:18 しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。5:19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。5:20 神がわたしたちをとおして勧め

をなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

ガラテヤ人への手紙 1:6 あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。1:7 それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。

エペソ人への手紙 2:1 さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって、2:2 かつては彼らの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている靈に従って、歩いていたのである。
(aiōn g165) 2:3 また、わたしたちもみな、かつては彼らの中にいて、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行ひ、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。2:4 しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、2:5 罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かしあなたがたの救われたのは、恵みによるのである 2:6 キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。2:7 それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった。
(aiōn g165) 2:8 あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。2:9 決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。2:10 わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

ピリピ人への手紙 3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためにあり、3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

コロサイ人への手紙 1:15 御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。1:16 万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。1:17 彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。1:18 そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。1:19 神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

テサロニケ人への手紙第一 4:1 最後に、兄弟たちよ。わたしたちは主イエスにあってあなたがたに願いかつ勧める。あなたがたが、どのように歩いて神を喜ばすべきかをわたしたちから学んだように、また、いま歩いているとおりに、ますます歩き続けなさい。

4:2 わたしたちがどういう教を主イエスによって与えたか、あなたがたはよく知っている。4:3 神のみこころは、あなたがたが清くなることである。すなわち、不品行を慎み、4:4 各自、気をつけて自分のからだを清く尊く保ち、4:5 神を知らない異邦人のように情欲をほしいままにせず、

テサロニケ人への手紙第二 3:6 兄弟たちよ。主イエス・キリストの名によってあなたがたに命じる。怠惰な生活をして、わたしたちから受けた言伝えに従わないすべての兄弟たちから、遠ざかりなさい。3:7 わたしたちに、どうならうべきであるかは、あなたがた自身が知っているはずである。あなたがたの所にいた時には、わたしたちは怠惰な生活をしなかつたし、3:8 人からパンをもらって食べることもしなかつた。それどころか、あなたがたのだれにも負担をかけまいと、日夜、労苦し努力して働き続けた。3:9 それは、わたしたちにその権利がないからではなく、ただわたしたちにあなたがたが見習うように、身をもって模範を示したのである。3:10 また、あなたがたの所にいた時に、「働くうとしない者は、食べることもしてはならない」と命じておいた。

テモテへの手紙第一 2:1 そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい。2:2 それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。2:3 これは、わたしたちの救主である神のみまえに良いことであり、また、みこころにかなうことである。2:4 神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。2:5 神は唯一であり、神ととの間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。

テモテへの手紙第二 2:8 ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思っていなさい。これがわたしの福音である。2:9 この福音のために、わたしは悪者のように苦しめられ、ついに鎖につながれるに至った。しかし、神の言はつながれてはいない。2:10 それだから、わたしは選ばれた人たちのために、いつさいのことを耐え忍ぶのである。それは、彼らもキリスト・イエスによる救を受け、また、それと共に永遠の栄光を受けるためである。*(aiōnios g166)*

テトスへの手紙 2:11 すべての人を救う神の恵みが現れた。2:12 そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、*(aiōn g165)* 2:13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。2:14 このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにはかならない。

ピレモンへの手紙 1:3 わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。1:4 わたしは、祈の時にあなたをおぼえて、いつもわたしの神に感謝している。1:5 それは、主イエスに対し、また、すべての聖徒に対するあなたの愛と信仰とについて、聞いているからである。1:6 どうか、あなたの信仰の交わりが強められて、わたしたちの間でキリストのためになされているすべての良いことが、知られて来るようになってほしい。1:7 兄弟よ。わたしは、あなたの愛によって多くの喜びと慰めとを与えられた。聖徒たちの心が、あなたによって力づけられたからである。

ヘブル人への手紙 1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの

世界を造られた。(aiōn g165) 1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の眞の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

ヤコブの手紙 1:16 愛する兄弟たちよ。思い違いをしてはいけない。1:17 あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。1:18 父は、わたしたちを、いわば被造物の初穂とするために、真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである。

ペテロの手紙第一 3:18 キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、靈においては生かされたのである。

ペテロの手紙第二 1:3 いのちと信心とにかくるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。1:4 また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。

ヨハネの手紙第一 2:1 わたしの子たちよ。これらのこと書きおくのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

ヨハネの手紙第二 1:7 なぜなら、イエス・キリストが肉体をとてこられたことを告白しないで人を惑わす者が、多く世にはいってきたからである。そういう者は、惑わす者であり、反キリストである。

ヨハネの手紙第三 1:4 わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。

ユダの手紙 1:3 愛する者たちよ。わたしたちが共にあずかっている救について、あなたがたに書きおりたいと心から願っていたので、聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦うことを勧めるように、手紙をおくる必要を感じるに至った。1:4 そのわけは、不信仰な人々がしのび込んできて、わたしたちの神の恵みを放縱な生活に変え、唯一の君であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからである。彼らは、このようなさばきを受けることに、昔から予告されているのである。

ヨハネの黙示録 3:19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしかつたり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。3:20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中にはといって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。3:21 勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についていたのと同様である。3:22 耳のある者は、御靈が諸教会に言うことを聞くがよい』」。

読者ガイド

日本語 at AionianBible.org/Readers-Guide

The Aionian Bible republishes public domain and Creative Common Bible texts that are 100% free to copy and print. The original translation is unaltered and notes are added to help your study. The notes show the location of eleven special Greek and Hebrew Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and for all mankind, and the nature of afterlife destinies.

Who has the authority to interpret the Bible and examine the underlying Hebrew and Greek words? That is a good question! We read in 1 John 2:27, "*As for you, the anointing which you received from him remains in you, and you do not need for anyone to teach you. But as his anointing teaches you concerning all things, and is true, and is no lie, and even as it taught you, you remain in him.*" Every Christian is qualified to interpret the Bible! Now that does not mean we will all agree. Each of us is still growing in our understanding of the truth. However, it does mean that there is no infallible human or tradition to answer all our questions. Instead the Holy Spirit helps each of us to know the truth and grow closer to God and each other.

The Bible is a library with 66 books in the Protestant Canon. The best way to learn God's word is to read entire books. Read the book of Genesis. Read the book of John. Read the entire Bible library. Topical studies and cross-referencing can be good. However, the safest way to understand context and meaning is to read whole Bible books. Chapter and verse numbers were added for convenience in the 16th century, but unfortunately they can cause the Bible to seem like an encyclopedia. The Aionian Bible is formatted with simple verse numbering, minimal notes, and no cross-referencing in order to encourage the reading of Bible books.

Bible reading must also begin with prayer. Any Christian is qualified to interpret the Bible with God's help. However, this freedom is also a responsibility because without the Holy Spirit we cannot interpret accurately. We read in 1 Corinthians 2:13-14, "*And we speak of these things, not with words taught by human wisdom, but with those taught by the Spirit, comparing spiritual things with spiritual things. Now the natural person does not receive the things of the Spirit of God, for they are foolishness to him, and he cannot understand them, because they are spiritually discerned.*" So we cannot understand in our natural self, but we can with God's help through prayer.

The Holy Spirit is the best writer and he uses literary devices such as introductions, conclusions, paragraphs, and metaphors. He also writes various genres including historical narrative, prose, and poetry. So Bible study must spiritually discern and understand literature. Pray, read, observe, interpret, and apply. Finally, "*Do your best to present yourself approved by God, a worker who does not need to be ashamed, properly handling the word of truth.*" 2 Timothy 2:15. "*God has granted to us his precious and exceedingly great promises; that through these you may become partakers of the divine nature, having escaped from the corruption that is in the world by lust. Yes, and for this very cause adding on your part all diligence, in your faith supply moral excellence; and in moral excellence, knowledge; and in knowledge, self-control; and in self-control patience; and in patience godliness; and in godliness brotherly affection; and in brotherly affection, love. For if these things are yours and abound, they make you to be not idle nor unfruitful to the knowledge of our Lord Jesus Christ,*" 2 Peter 1:4-8.

用語集

日本語 at AionianBible.org/Glossary

The Aionian Bible un-translates and instead transliterates eleven special words to help us better understand the extent of God's love for individuals and all mankind, and the nature of afterlife destinies. The original translation is unaltered and a note is added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. Compare the meanings below to the Strong's Concordance and Glossary definitions.

Abyssos g12

Greek: proper noun, place

Usage: 9 times in 3 books, 6 chapters, and 9 verses

Meaning:

Temporary prison for special fallen angels such as Apollyon, the Beast, and Satan.

aīdios g126

Greek: adjective

Usage: 2 times in Romans 1:20 and Jude 6

Meaning:

Lasting, enduring forever, eternal.

aiōn g165

Greek: noun

Usage: 127 times in 22 books, 75 chapters, and 102 verses

Meaning:

A lifetime or time period with a beginning and end, an era, an age, the completion of which is beyond human perception, but known only to God the creator of the aiōns, Hebrews 1:2. Never meaning simple endless or infinite chronological time in Greek usage. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs.

aiōnios g166

Greek: adjective

Usage: 71 times in 19 books, 44 chapters, and 69 verses

Meaning:

From start to finish, pertaining to the age, lifetime, entirety, complete, or even consummate. Never meaning simple endless or infinite chronological time in Koine Greek usage. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs.

eleēsē g1653

Greek: verb, aorist tense, active voice, subjunctive mood, 3rd person singular

Usage: 1 time in this conjugation, Romans 11:32

Meaning:

To have pity on, to show mercy. Typically, the subjunctive mood indicates possibility, not certainty. However, a subjunctive in a purpose clause is a resulting action as certain as the causal action. The subjunctive in a purpose clause functions as an indicative, not an optative. Thus, the grand conclusion of grace theology in Romans 11:32 must be clarified. God's mercy on all is not a possibility, but a certainty. See ntgreek.org.

Geenna g1067

Greek: proper noun, place

Usage: 12 times in 4 books, 7 chapters, and 12 verses

Meaning:

Valley of Hinnom, Jerusalem's trash dump, a place of ruin, destruction, and judgment in this life, or the next, though not eternal to Jesus' audience.

Hades g86

Greek: proper noun, place

Usage: 11 times in 5 books, 9 chapters, and 11 verses

Meaning:

Synonomous with Sheol, though in New Testament usage Hades is the temporal place of punishment for deceased unbelieving mankind, distinct from Paradise for deceased believers.

Limnē Pyr g3041 g4442

Greek: proper noun, place

Usage: Phrase 5 times in the New Testament

Meaning:

Lake of Fire, final punishment for those not named in the Book of Life, prepared for the Devil and his angels, Matthew 25:41.

Sheol h7585

Hebrew: proper noun, place

Usage: 66 times in 17 books, 50 chapters, and 64 verses

Meaning:

The grave or temporal afterlife world of both the righteous and unrighteous, believing and unbelieving, until the general resurrection.

Tartaroō g5020

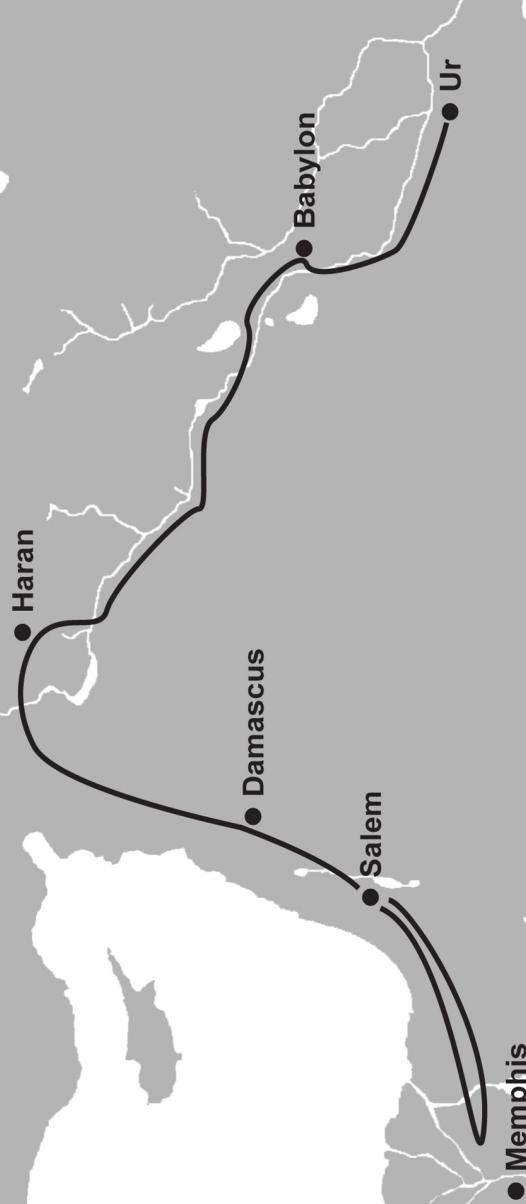
Greek: proper noun, place

Usage: 1 time in 2 Peter 2:4

Meaning:

Temporary prison for particular fallen angels awaiting final judgment.

N

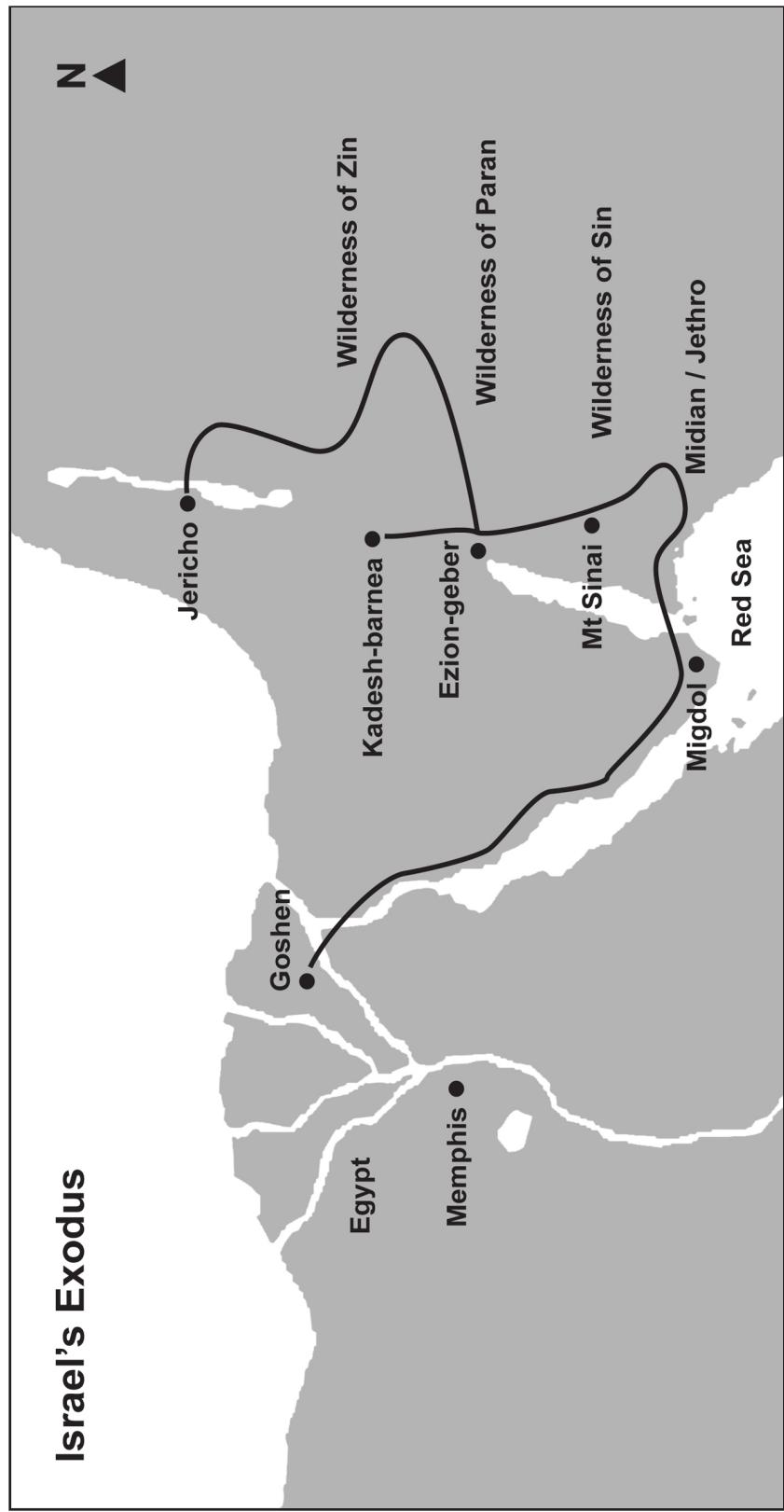


Abraham's Journey

信仰によつて、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむつた時、それに従い、行く先を知らないで出で行つた。
- ヘブル人への手紙 11:8

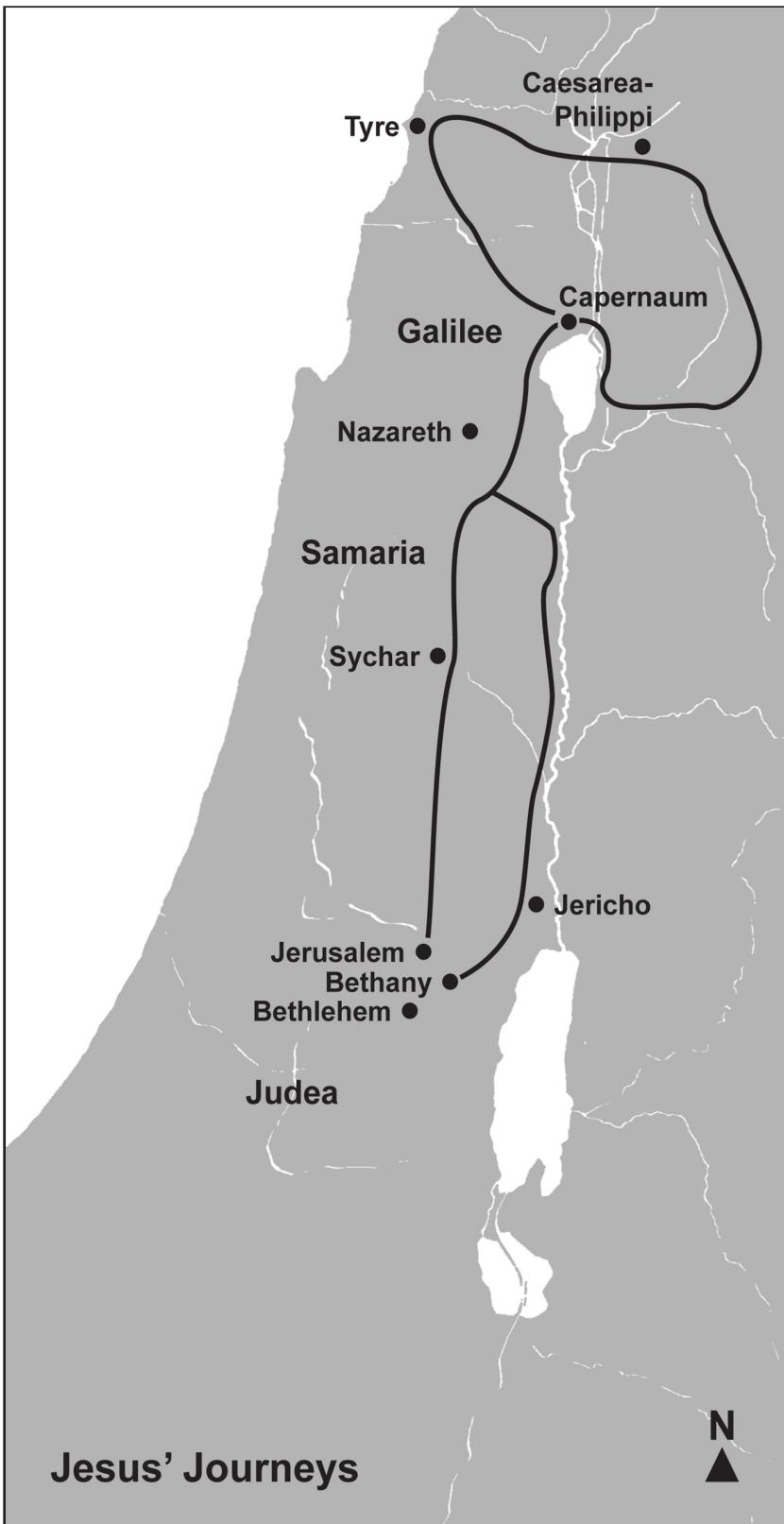
Israel's Exodus

N ▲



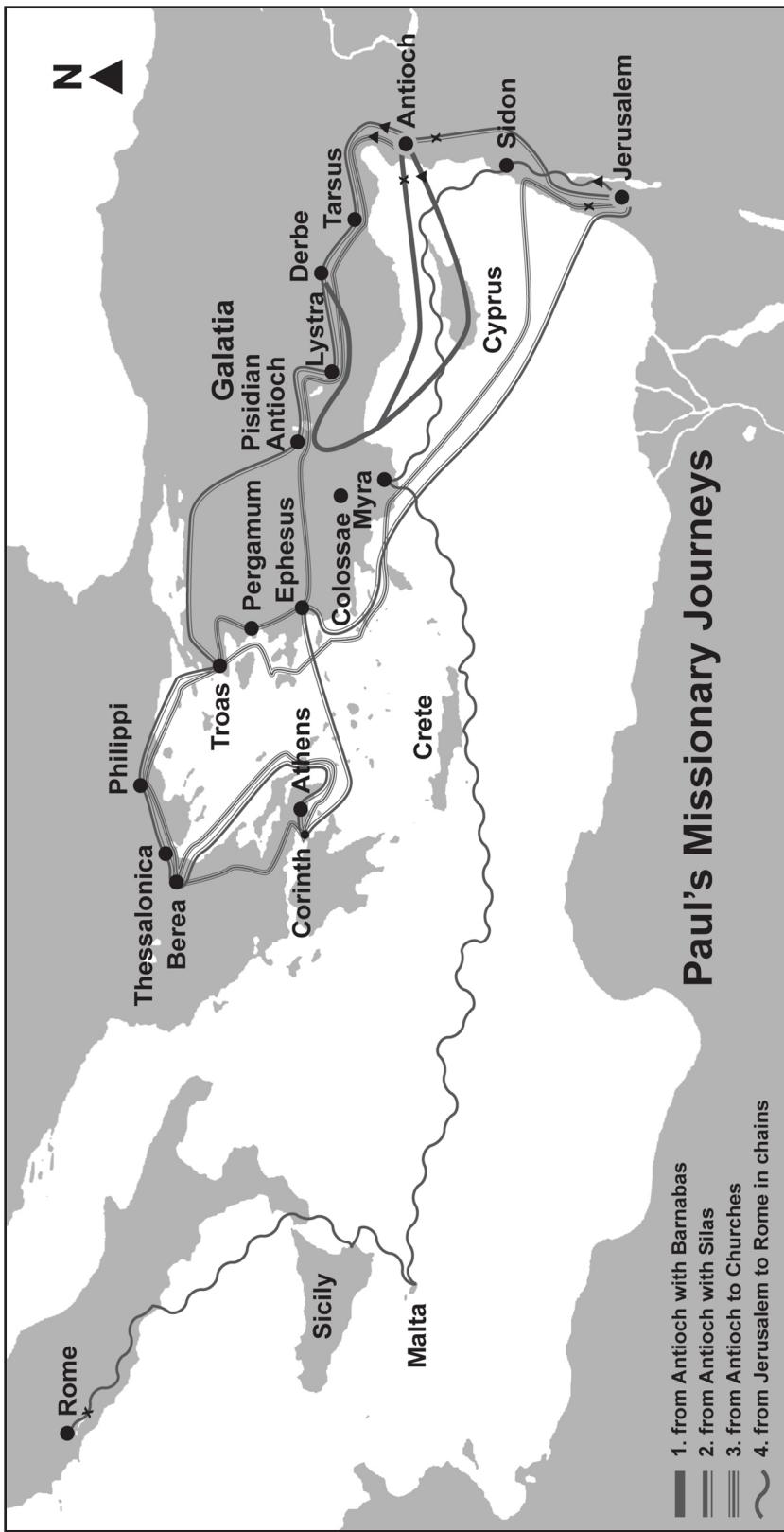
さて、パロが民を去らせた時、ペリシテびとの國の道は近かつたが、神は彼らをそれに導かれなかつた。
民が戦いを見れば悔いてエジプトに帰るであろうと、神は思われたからである。 - 出エジプト記 13:17

Jesus' Journeys



人の子がきたのも、仕えられたためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。

- マルコの福音書 10:45



Paul's Missionary Journeys

1. from Antioch with Barnabas
2. from Antioch with Silas
3. from Antioch to Churches
4. from Jerusalem to Rome in chains

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び別たれ、召されて使徒となつたパウロから
ローマ人への手紙 1:1

Creation 4004 B.C.

Adam and Eve created	4004
Tubal-cain forges metal	3300
Enoch walks with God	3017
Methuselah dies at age 969	2349
God floods the Earth	2349
Tower of Babel thwarted	2247
Abraham sojourns to Canaan	1922
Jacob moves to Egypt	1706
Moses leads Exodus from Egypt	1491
Gideon judges Israel	1245
Ruth embraces the God of Israel	1168
David installed as King	1055
King Solomon builds the Temple	1018
Elijah defeats Baal's prophets	896
Jonah preaches to Nineveh	800
Assyrians conquer Israelites	721
King Josiah reforms Judah	630
Babylonians capture Judah	605
Persians conquer Babylonians	539
Cyrus frees Jews, rebuilds Temple	537
Nehemiah rebuilds the wall	454
Malachi prophesies the Messiah	416
Greeks conquer Persians	331
Seleucids conquer Greeks	312
Hebrew Bible translated to Greek	250
Maccabees defeat Seleucids	165
Romans subject Judea	63
Herod the Great rules Judea	37

(The Annals of the World, James Usher)



Jesus Christ born 4 B.C.

New Heavens and Earth



- Christ returns for his people
- 1956 Jim Elliot martyrd in Ecuador
 - 1830 John Williams reaches Polynesia
 - 1731 Zinzendorf leads Moravian mission
 - 1614 Japanese kill 40,000 Christians
 - 1572 Jesuits reach Mexico
 - 1517 Martin Luther leads Reformation
 - 1455 Gutenberg prints first Bible
 - 1323 Franciscans reach Sumatra
 - 1276 Ramon Llull trains missionaries
 - 1100 Crusades tarnish the church
 - 1054 The Great Schism
 - 997 Adalbert martyrd in Prussia
 - 864 Bulgarian Prince Boris converts
 - 716 Boniface reaches Germany
 - 635 Alopen reaches China
 - 569 Longinus reaches Alodia / Sudan
 - 432 Saint Patrick reaches Ireland
 - 397 Carthage ratifies Bible Canon
 - 341 Ulfilas reaches Goth / Romania
 - 325 Niceae proclaims God is Trinity
 - 250 Denis reaches Paris, France
 - 197 Tertullian writes Christian literature
 - 70 Titus destroys the Jewish Temple
 - 61 Paul imprisoned in Rome, Italy
 - 52 Thomas reaches Malabar, India
 - 39 Peter reaches Gentile Cornelius
 - 33 Holy Spirit empowers the Church

(Wikipedia, Timeline of Christian missions)

Resurrected 33 A.D.

► Who are we?	What are we? ►		Genesis 1:26 - 2:3	
	How are we sinful? ►		Romans 5:12-19	
	Where are we? ◀		Innocence	
			Eternity Past	Creation 4004 B.C.
	God	Father	John 10:30 God's perfect fellowship	Genesis 1:31 God's perfect fellowship with Adam in The Garden of Eden
		Son		
		Holy Spirit		
	Mankind	Living	Genesis 1:1 No Creation No people	Genesis 1:31 No Fall No unholy Angels
		Deceased believing		
		Deceased unbelieving		
	Angels	Holy		
		Imprisoned		
		Fugitive		
		First Beast		
		False Prophet		
		Satan		
Why are we? ►		Romans 11:25-36, Ephesian 2:7		

Mankind is created in God's image, male and female He created us

Sin entered the world through Adam and then death through sin

When are we?



Fallen				Glory
Fall to sin No Law	Moses' Law 1500 B.C.	Christ 33 A.D.	Church Age Kingdom Age	New Heavens and Earth
1 Timothy 6:16 Living in unapproachable light				Acts 3:21 Philippians 2:11 Revelation 20:3
John 8:58 Pre-incarnate	John 1:14 Incarnate	Luke 23:43 Paradise		
Psalm 139:7 Everywhere	John 14:17 Living in believers			
Ephesians 2:1-5 Serving the Savior or Satan on Earth				God's perfectly restored fellowship with all Mankind praising Christ as Lord in the Holy City
Luke 16:22 Blessed in Paradise				
Luke 16:23, Revelation 20:5,13 Punished in Hades until the final judgment				
Hebrews 1:14 Serving mankind at God's command				
2 Peter 2:4, Jude 6 Imprisoned in Tartarus				Matthew 25:41 Revelation 20:10
1 Peter 5:8, Revelation 12:10 Rebelling against Christ Accusing mankind				Revelation 20:13 Thalaasa
				Revelation 19:20 Lake of Fire
				Revelation 20:2 Abyss
Lake of Fire prepared for the Devil and his Angels				

For God has bound all over to disobedience in order to show mercy to all

運命

日本語 at AionianBible.org/Destiny

The Aionian Bible shows the location of eleven special Greek and Hebrew Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and for all mankind, and the nature of after-life destinies. The underlying Hebrew and Greek words typically translated as *Hell* show us that there are not just two after-life destinies, Heaven or Hell. Instead, there are a number of different locations, each with different purposes, different durations, and different inhabitants. Locations include 1) Old Testament *Sheol* and New Testament *Hadēs*, 2) *Geenna*, 3) *Tartaroō*, 4) *Abyssos*, 5) *Limnē Pyr*, 6) *Paradise*, 7) *The New Heaven*, and 8) *The New Earth*. So there is reason to review our conclusions about the destinies of redeemed mankind and fallen angels.

The key observation is that fallen angels will be present at the final judgment, 2 Peter 2:4 and Jude 6. Traditionally, we understand the separation of the Sheep and the Goats at the final judgment to divide believing from unbelieving mankind, Matthew 25:31-46 and Revelation 20:11-15. However, the presence of fallen angels alternatively suggests that Jesus is separating redeemed mankind from the fallen angels. We do know that Jesus is the helper of mankind and not the helper of the Devil, Hebrews 2. We also know that Jesus has atoned for the sins of all mankind, both believer and unbeliever alike, 1 John 2:1-2. Deceased believers are rewarded in Paradise, Luke 23:43, while unbelievers are punished in Hades as the story of Lazarus makes plain, Luke 16:19-31. Yet less commonly known, the punishment of this selfish man and all unbelievers is before the final judgment, is temporal, and is punctuated when Hades is evacuated, Revelation 20:13. So is there hope beyond Hades for unbelieving mankind? Jesus promised, "*the gates of Hades will not prevail*," Matthew 16:18. Paul asks, "*Hades where is your victory?*" 1 Corinthians 15:55. John wrote, "*Hades gives up*," Revelation 20:13.

Jesus comforts us saying, "*Do not be afraid*," because he holds the keys to *unlock* death and Hades, Revelation 1:18. Yet too often our Good News sounds like a warning to "*be afraid*" because Jesus holds the keys to *lock* Hades! Wow, we have it backwards! Hades will be evacuated! And to guarantee hope, once emptied, Hades is thrown into the Lake of Fire, never needed again, Revelation 20:14.

Finally, we read that anyone whose name is not written in the Book of Life is thrown into the Lake of Fire, the second death, with no exit ever mentioned or promised, Revelation 21:1-8. So are those evacuated from Hades then, "*out of the frying pan, into the fire?*" Certainly, the Lake of Fire is the destiny of the Goats. But, do not be afraid. Instead, read the Bible's explicit mention of the purpose of the Lake of Fire and the identity of the Goats, "*Then he will say also to those on the left hand, 'Depart from me, you cursed, into the consummate fire which is prepared for... the devil and his angels,'*" Matthew 25:41. Bad news for the Devil. Good news for all mankind!

Faith is not a pen to write your own name in the Book of Life. Instead, faith is the glasses to see that the love of Christ for all mankind has already written our names in Heaven. Jesus said, "*You did not choose me, but I chose you*," John 15:16. Though unbelievers will suffer regrettable punishment in Hades, redeemed mankind will never enter the Lake of Fire, prepared for the devil and his angels. And as God promised, all mankind will worship Christ together forever, Philippians 2:9-11.

World Nations

されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、
・マタイの福音書 28:19

